

大橋川改修に伴う河川構造物等の景観設計指針(案)

平成25年5月

国土交通省 出雲河川事務所

【 目 次 】

1. 本指針の位置づけ	1
2. 河川構造物等の整備に係わる景観設計の課題と方針	1
3. ゾーン区分及び区間区分	2
4. 各区間の景観設計指針	3
4-1 上流部ゾーン(北岸)	3
4-1-1 区間①：宍道湖大橋～新大橋下流（北岸）	3
4-1-2 区間②：新大橋下流～上追子川合流点（北岸）	8
4-2 上流部ゾーン(南岸)	13
4-2-1 区間③：宍道湖大橋～新大橋（南岸）	13
4-2-2 区間④：新大橋～くにびき大橋（南岸）	18
4-3 中流部ゾーン	23
4-3-1 区間⑤：上追子川合流点～五川合流点（北岸）	23
4-3-2 区間⑥：くにびき大橋～五川合流点（南岸）	28
4-4 下流部ゾーン	33
4-4-1 区間⑦：五川合流点～中海大橋（北岸）	33
4-4-2 区間⑧：五川合流点～中海大橋（南岸）	39

1. 本指針の位置づけ

大橋川からは、東には大山、西には夕日、南には嫁ヶ島、北には松江城が眺望できる。また、大橋川沿川においては川を舞台に営まれてきた伝統行事や四季折々に愛でてきた景観があり、歴史とともに培われてきた川とまちとの良好な関係が今もなお息づいている。

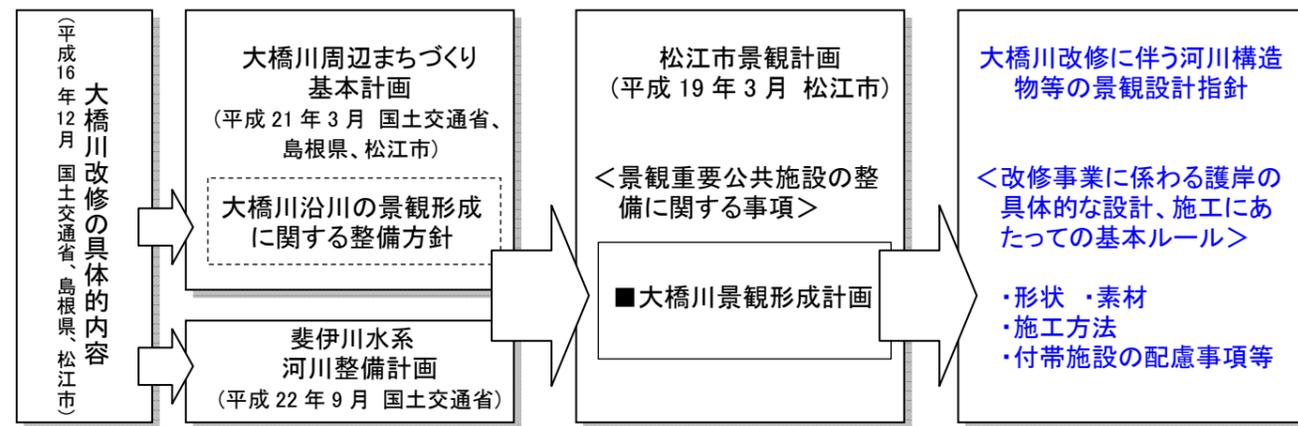
また、上流部では、老舗旅館、松江大橋、柳並木など大橋川沿いの歴史あるまちなみ、中流部では、川や水路、湿地などが織りなす水と緑の自然豊かな水郷、下流部では、古墳や多賀神社、塩桶島、矢田の渡しなど古くから人との関わりを感じさせる川の姿、という景観的特徴をそれぞれが有している。

一方、治水事業として大橋川改修事業が推進されるなか、松江市の骨格となる河川景観軸である大橋川について、河川としての水面・水際の連続性を保ちつつ、それぞれの地域が持つ景観特性を活かして良好な景観形成を行い、水の都松江にふさわしい大橋川の良好な景観を保全・創造・継承していくことが強く求められている。

松江市は、景観法に基づく「松江市景観計画」（平成19年3月）を策定し、大橋川を松江市の骨格となる景観として河川景観軸の一つに設定している。また、平成23年10月には、「大橋川周辺まちづくり基本計画」及び「大橋川沿川の景観形成に関する整備方針」を踏まえ、水の都松江にふさわしい大橋川の良好な景観形成を図るため、「松江市景観計画」の景観重要公共施設の整備に関する事項を、「大橋川景観形成計画」として定めている。

本指針は、「大橋川景観形成計画」に示される、「良好な景観形成に関する方針」に基づきながら、改修事業に係わる具体的な設計、施工にあたっての基本ルール（形状、素材、施工方法、付帯施設への配慮事項等）を示し、長期にわたる改修事業において一貫した景観形成方針が図られるようにすることを目的とする。

本指針と他計画と関連を下図に示す。



2. 河川構造物等の整備に係わる景観形成の課題と方針

- ◆大橋川上流部では、水面に映る歴史ある街並みや松江大橋の風情など、水都松江を象徴する景観が展開している。また水際には古くからの石積護岸も残っており、河川構造物は長い年月を経て、周辺景観に溶け込む存在となっている。
- ◆また大橋川中～下流部は、水田の広がりや緑の山々に囲まれ、水際にヨシやコアマモ群落広がる自然豊かな景観と生物生息環境が特徴となっている。
- ◆大橋川河川改修は、こうした景観に大きなインパクトを与える可能性があることから、新たに整備される河川構造物については、周辺景観に程よく馴染むよう十分に配慮し、水都松江の景観を継承するものとする。
- ◆周辺景観に馴染みやすいものとするためには、構造物自体が自己主張せず、周辺景観の中で脇役となることを前提とする必要がある。また“馴染み”を設計や施工に具体化するためには、歴史を踏まえた材料、工法、細部処理について十分な吟味が必要であり、単に自然石を採用すれば良いといった短絡的な整備とならないよう注意する必要がある。
- ◆このうち護岸材料については、地域景観との馴染みやすさ、あるいは地域産業と一体となった川づくりという点で、地場産石材を用いることにも配慮する。ただし現況の護岸に多く用いられている島石をはじめ、地場産の自然石等は供給量が限られていることから、一連の区間が様々な材料のツギハギにならないよう、施工規模と供給量について十分に検討を行った上で、最適な材料を選定する。
- ◆一方、地域の治水安全度を向上させるという基本的な事業目的に基づき、護岸等の構造・材料は確実な強度を有する必要がある、治水機能と景観のバランスについて慎重に検討を行う必要がある。また公共事業に係るコスト縮減は近年の社会情勢の基調であり、コスト縮減に配慮して整備を進めるものとする。



歴史ある街並みと大橋川の水面を基調とした上流部の景観



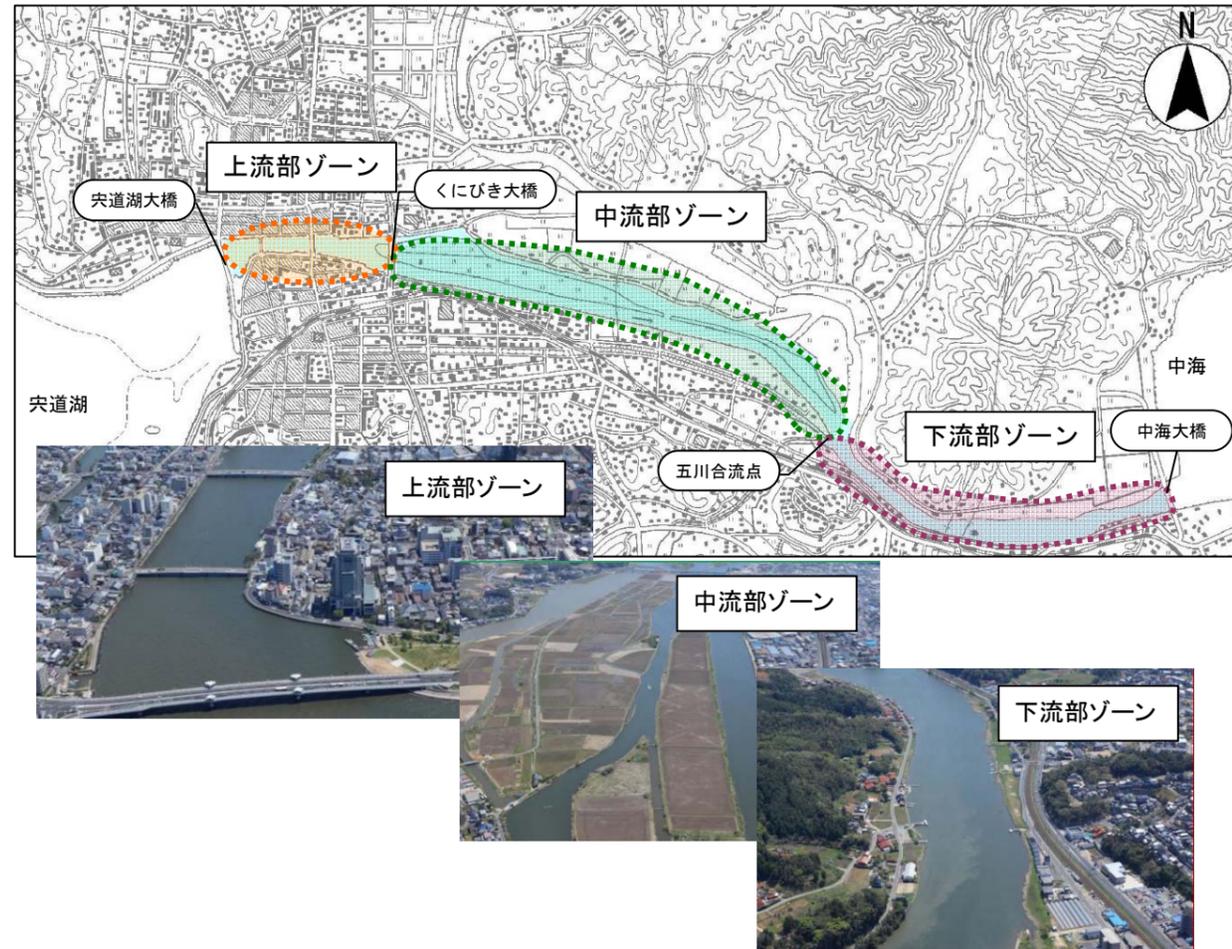
山並みや水田に囲まれた自然豊かな水辺が展開する中・下流部の景観

3. ゾーン区分及び区間区分

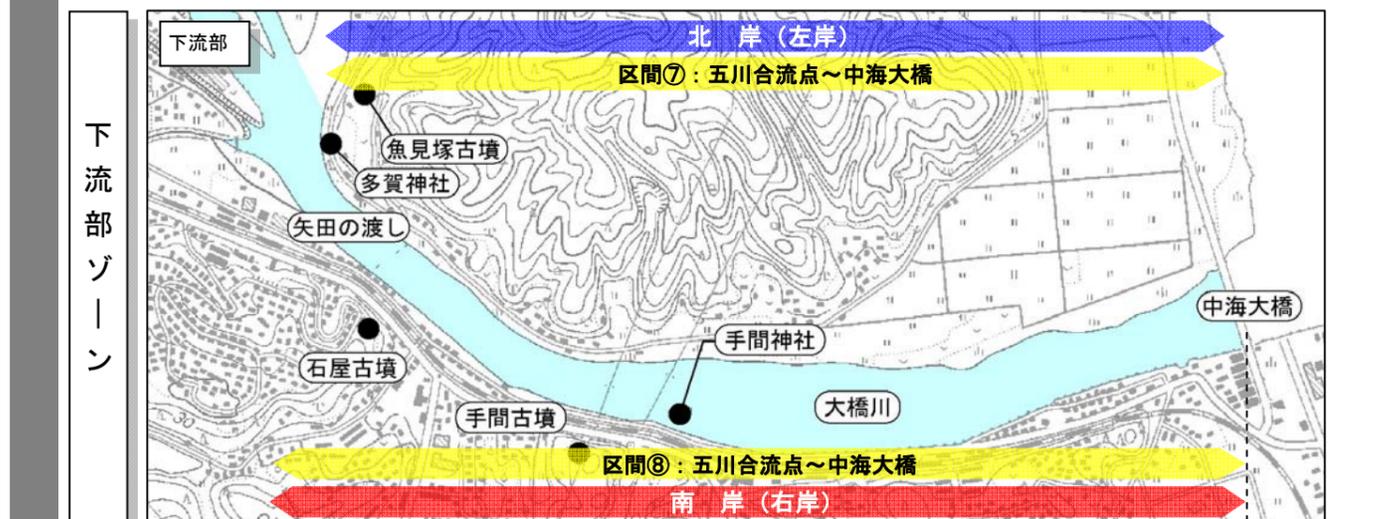
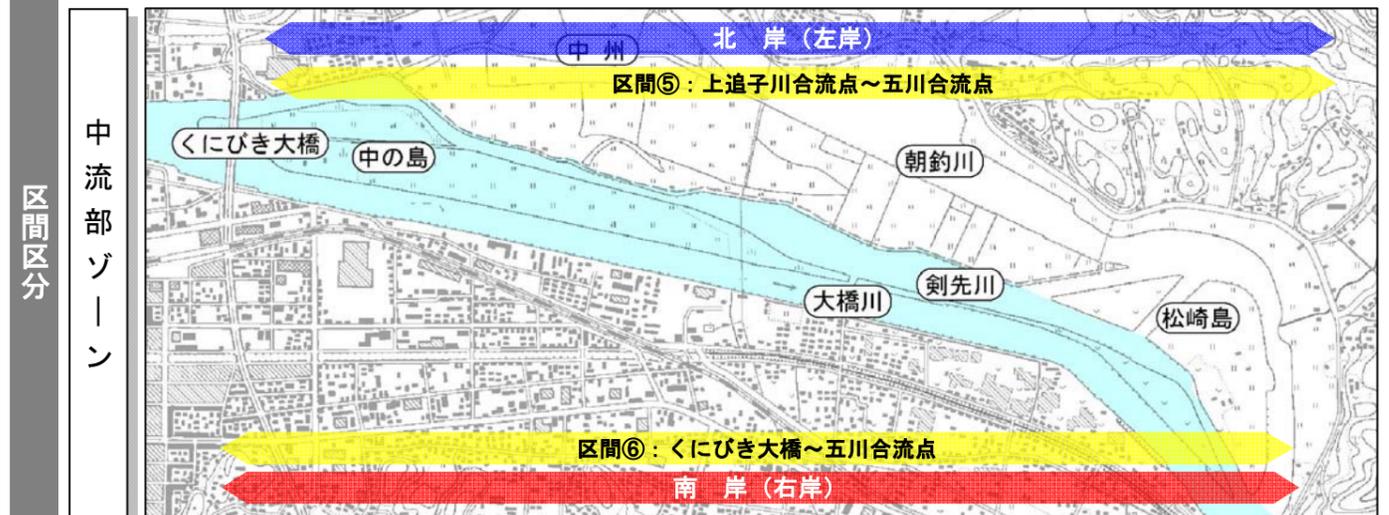
河川改修事業に係わる護岸整備を実施するにあたっては、大橋川の景観を特徴付ける各地域のそれぞれが持つ個性やまちづくりの方針を十分に踏まえながら、整備を進める必要がある。

松江市の大橋川景観形成計画では、大橋川全川について、大きく3つのゾーン区分を設定し、さらに詳細な8区間区分を設定している。

本指針においても、松江市のまちづくり方針や景観形成方針との整合をとるため、上記のゾーン区分・区間区分を踏襲して、それぞれのゾーン・区間における護岸整備の指針を提示するものとする。



ゾーン区分		ゾーンの概要
上流部ゾーン	宍道湖大橋～ くにびき大橋	歴史的文化的なまちなみ景観と、人々が集い・行き交う賑わいのある都市的な景観を有するゾーン
中流部ゾーン	くにびき大橋 ～五川合流点	川や水田、湿性地などが織りなす水と緑の自然豊かな水郷の景観が広がるゾーン
下流部ゾーン	五川合流点 ～中海大橋	古墳や多賀神社、塩桶島などの古くから受け継がれた歴史的資源が多い。また矢田の渡しや釣り場があるなど、古くか人との関わりが深いゾーン



注) 上流部ゾーンの区間①は、背後地の都市構造や河川景観の特徴を勘案し、区間を新大橋下流まで拡大して再設定している(大橋川景観形成計画では新大橋まで)

4. 各区間の景観設計指針

4-1 上流部ゾーン:北岸

4-1-1 区間①: 宍道湖大橋～新大橋下流(北岸)

(1) 景観特性

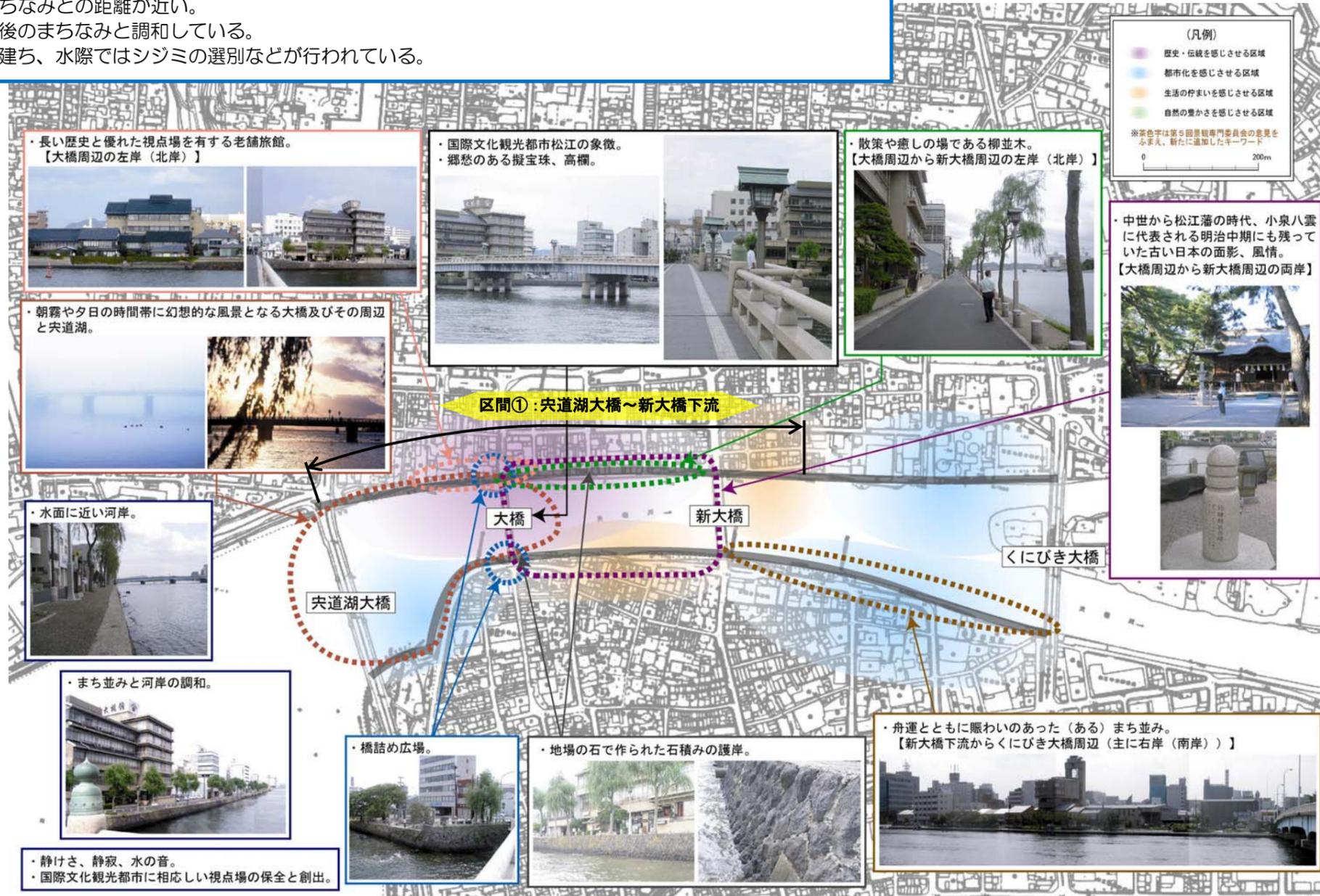
区間①: 宍道湖大橋～新大橋下流

<歴史性>

- 長い歴史と優れた視点場を有する老舗旅館が川沿いに建ち、国際文化観光都市松江の象徴といわれる松江大橋が位置する。
- 散策や癒しの場である柳並木が川沿いに続く。
- 松江大橋および宍道湖の周辺では、朝霧や夕日の時間帯などに幻想的な風景がみられる。
- 地場の石を用いた石積みの護岸がまちなみや柳並木と調和している。
- 川の流流は緩やかで、岸边にうちよせる波音は穏やかである。水の透明度が高く岸边から水底をみることができる。

<生活>

- 川とその背後のまちなみとの距離が近い。
- 石積みの護岸は背後のまちなみと調和している。
- 川に面して民家が建ち、水際にはシジミの選別などが行われている。



(2) 主な景観要素

区間①：央道湖大橋～新大橋下流

- 老舗の旅館等
- 松江大橋
- 柳並木
- 石積み護岸
- 船着場



(3) 護岸状況と視覚的特性

区間①：央道湖大橋～新大橋下流

護岸状況

- ・一部を除いて島石の石積み護岸となっている。
- ・新大橋下流に矢板護岸の船着場があり、小段より上は島石の石積み護岸となっている。

視覚的特性

- ・対岸景では遠景となること、背後にスケールの大きい建物が点在することから、護岸は殆ど目立たない。また、船着場の矢板護岸も、前面に係船があるため、特に目立たない。
- ・川沿いの道路や松江大橋は観光客等の人通りが多く、近景での視点場となる。
- ・柳並木と旅館などが歴史的な面影と風情を醸し出している。



位置	区間①：央道湖大橋～新大橋下流			
	A	B	C	D
場所	フコク生命前	臨水亭・皆見館	大橋館	船着き場
形式	コンクリート護岸	石積み護岸+モルタル壁	石積み護岸	石積み護岸
材質	コンクリート	島石	島石	島石
写真				



(4) 自然環境と水辺利用

区間①： 宍道湖大橋～新大橋下流

<自然環境>

- 汽水環境の水域内にはヤマトシジミなどが生息し、サッパ、コノシロ、スズキ、マハゼ等の魚類が中海～宍道湖間の移動経路として利用している。

<水辺利用>

- 川沿いの道路には老舗旅館が立ち並び、観光客等の散策ルートになっている。
- 12年に一度、約100隻の船が大橋川を舞台に繰り広げる「ホーランエンヤ」が開催されている。
- 市民参加のボートレースとして始められた「松江市民レガッタ」の会場として利用されている。
- 新大橋下流にシジミ漁の漁船の船着き場がある。



(5) 景観設計目標

◆上流部ゾーン基本方針

- ・小泉八雲の愛した「日本の面影」・静けさを有する空間と、人々が集い・行き交う賑わいの空間が調和した新たな時代にふさわしい景観形成を行う。
- ・大橋や柳並木周辺の風情に配慮した景観形成を行う。
- ・国際文化観光都市松江にふさわしい優れた視点場の保全と創出を行う。
- ・水と人、川とまちの近さを活かした景観形成を行う。

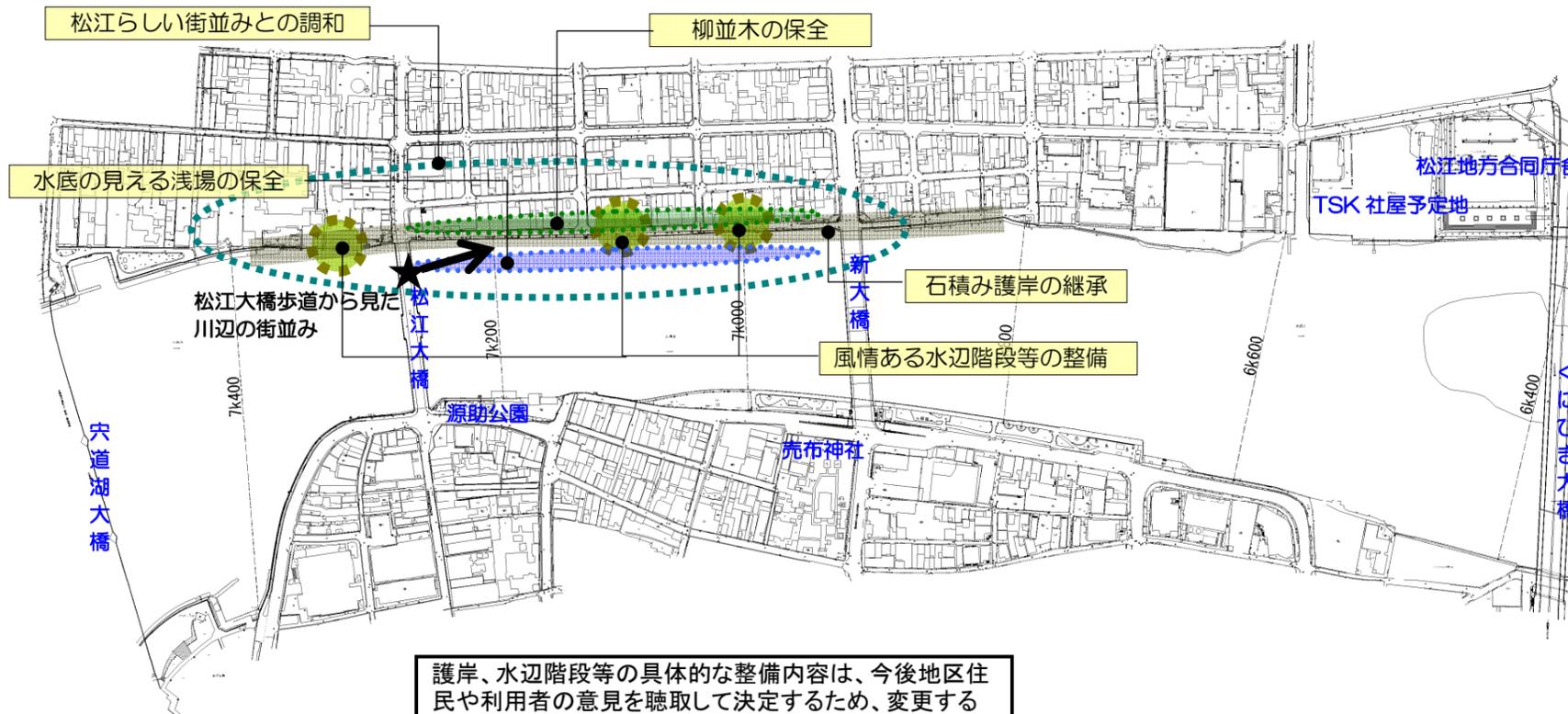
区間①： 宍道湖大橋～新大橋下流

景観整備目標

- ・柳並木や背後の町並み、現状の石積み護岸などの風情に配慮しつつ、穏やかな水音を楽しみ、水底を見ることができる景観整備を行う。

景観整備の方向性

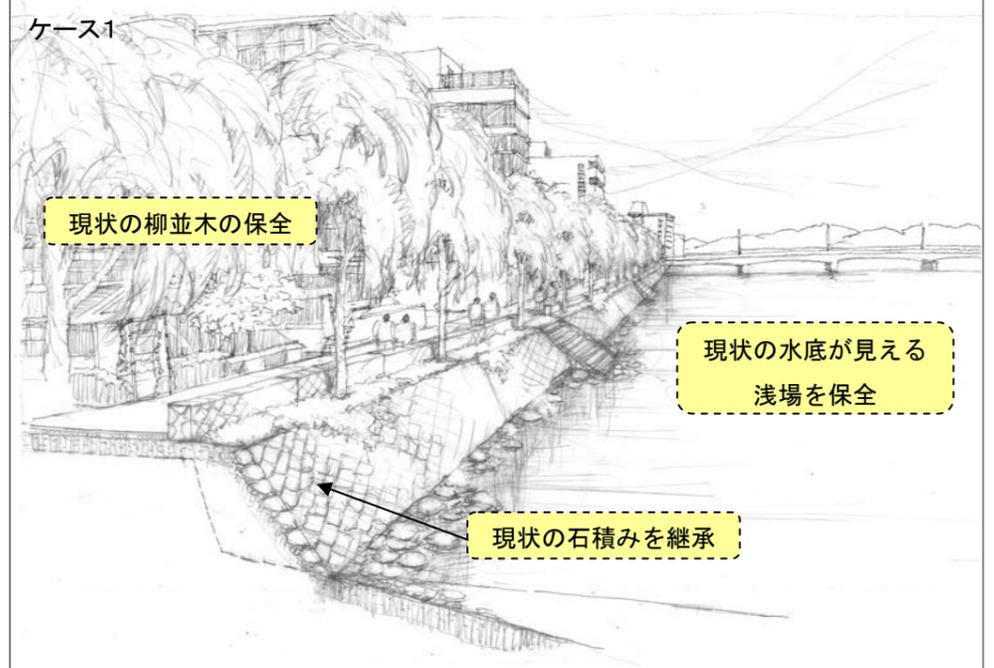
- ・現状の動線、眺望場所を保全する。
- ・現状の石積み護岸の景観を継承する。
- ・現状の水底が見える浅場等水際景観を保全する。
- ・パラペットは、景観上、極力高さを抑える。
- ・現状の柳並木を保全する。



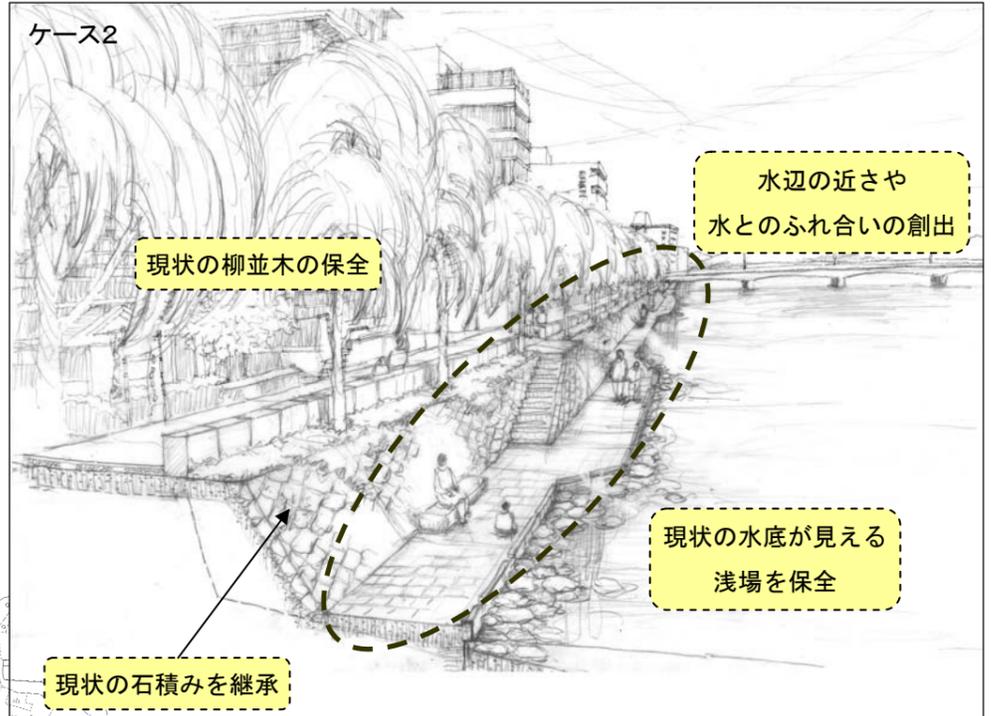
護岸、水辺階段等の具体的な整備内容は、今後地区住民や利用者の意見を聴取して決定するため、変更する場合があります。

整備イメージ例

ケース1



ケース2



(6) 景観設計方針

景観設計にあたり配慮すべき事項

①護岸選定方針

◆石積み護岸を基本とする

- 背後の町並みとの調和、現状の石積み護岸や柳並木等の風情に配慮し、観光都市松江にふさわしい水辺景観の形成を図るため、石積み護岸を基本とする。

②水辺のスポット・修景要素配置の考え方

◆主要な視点場からの眺めに配慮し階段等を配置する

- 既設階段の位置や形式も踏まえながら、主要な視点場からの見え方に配慮し、水辺景観形成の修景要素ともなる階段等を配置する。
- 当区間では、背後の街並みを主役とした松江ならではの景観形成を基本とすることから、自己主張が強く現況景観と調和しにくいものとならないよう配慮する必要がある。

③主要な視点場と景観

◆松江大橋歩道上からみた川辺の街並み



景観設計方針

(今後作成予定)

- 護岸材料
 - 材料
 - 構造、積み方
 - 強度
 - 明度、色相
- 細部の処理
 - 階段部、テラス部
 - 天端処理
 - 端部処理
 - 帯工 など
- 付帯施設
 - 通路
 - 転落防止柵 など

4-1-2 区間②:新大橋下流～上追子川合流点(北岸)

(2) 主な景観要素

(1) 景観特性

区間②：新大橋下流～上追子川合流点

<都市>

- 川沿いに松江地方合同庁舎や島根県学校給食総合センター等の公共施設、マンション、大型商業施設等が立ち並び、都市化の進展を感じさせる景観となっている。
- 松江市ガス局跡地には山陰中央テレビ本社のビルが建設予定である。

区間②：新大橋下流～上追子川合流点

- 公共施設(松江地方合同庁舎等)
- マンション、商業施設
- 新大橋、くにびき大橋



公共施設(松江地方合同庁舎)



マンション、商業施設



くにびき大橋

(凡例)

- 歴史・伝統を感じさせる区域
- 都市化を感じさせる区域
- 生活の佇まいを感じさせる区域
- 自然の豊かさを感じさせる区域

※茶色字は第5回景観専門委員会の意見をふまえ、新たに追加したキーワード

0 200m

区間②：新大橋下流～上追子川合流点

大橋

新大橋

くにびき大橋

尖道湖大橋

・長い歴史と優れた視点を有する老舗旅館。
【大橋周辺の左岸(北岸)】

・国際文化観光都市松江の象徴。
・郷愁のある擬宝珠、高欄。

・散策や癒しの場である柳並木。
【大橋周辺から新大橋周辺の左岸(北岸)】

・中世から松江藩の時代、小泉八雲に代表される明治中期にも残っていた古い日本の面影、風情。
【大橋周辺から新大橋周辺の両岸】

・朝霧や夕日の時間帯に幻想的な風景となる大橋及びその周辺と尖道湖。

・水面に近い河岸。

・まち並みと河岸の調和。

・静けさ、静寂、水の音。
・国際文化観光都市に相応しい視点場の保全と創出。

・橋詰め広場。

・地場の石で作られた石積みの護岸。

・舟運とともに賑わいのあった(ある)まち並み。
【新大橋下流からくにびき大橋周辺(主に右岸(南岸))】

(3) 護岸状況と視覚的特性

区間②：新大橋下流～上追子川合流点

護岸状況

•一部を除いてコンクリートブロック積み護岸となっている。

- 対岸景では遠景となること、背後にスケールの大きい建物が点在することから、護岸は殆ど目立たない。
- 水際にヨシ原が見られ、美しい水辺景観を呈している。
- 川沿いは通行可能であるが人通りはほとんどなく、間近で護岸を眺めるような視点は特に無い。

視覚的特性



位置	区間②：新大橋下流～上追子川合流点			
	E	F	G	H
場所		サンライズマンション	エディオン	松江合同庁舎
形式	コンクリートブロック積み護岸	コンクリート護岸	整備中	コンクリートブロック積み護岸
材質	コンクリートブロック	コンクリート	-	コンクリートブロック
写真				



(4) 自然環境と水辺利用

区間②：新大橋下流～上追子川合流点

<自然環境>

- 水際の一部に、上流部ゾーンで唯一のヨシ群落が見られる。

<水辺利用>

- 松江合同庁舎前には、広いテラスや階段のある水景広場が整備されており、開放感のある眺望を楽しむことができる。
- 河岸付近には通行可能なスペースはあるものの、一般歩行者が行き来するような空間とはなっていない。また、向島川や上追子川で上下流の連続性も分断されている。



(5) 景観設計目標

区間②：新大橋下流～上追子川合流点

景観整備目標

- 背後のまちなみや現状の石積み護岸、生活の佇まいなどの風情に配慮しつつ、現状の水面等を見ることができる景観整備を行う
- 背後の施設（松江地方合同庁舎等）と一体となって、人々が集い、安らぐことができる都市的な雰囲気をもった水辺の景観整備を行う。

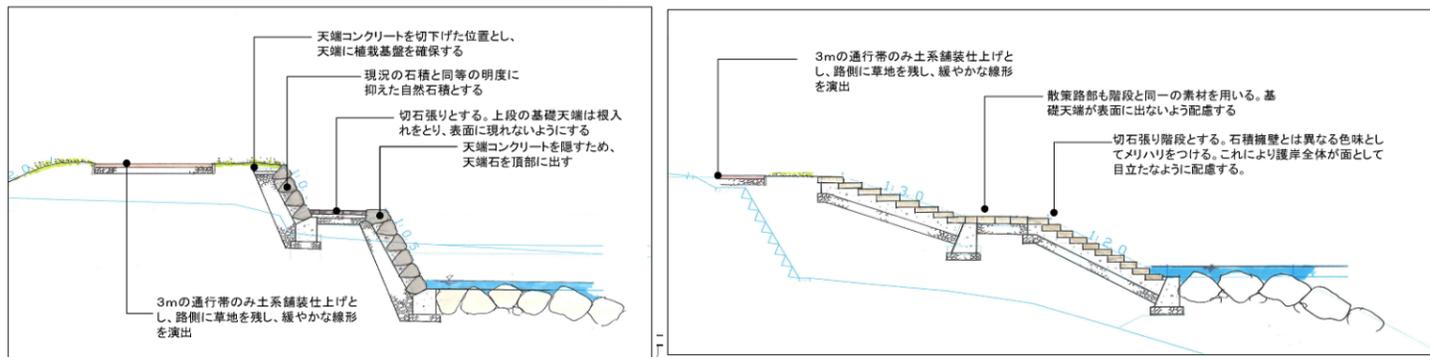
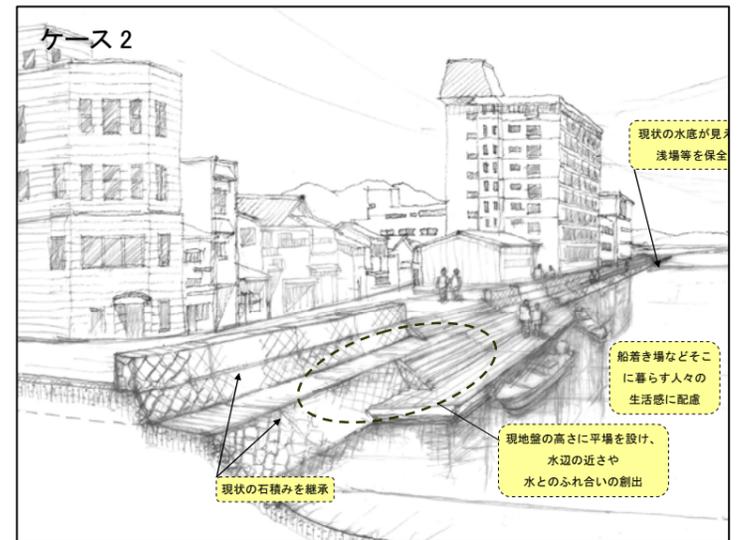
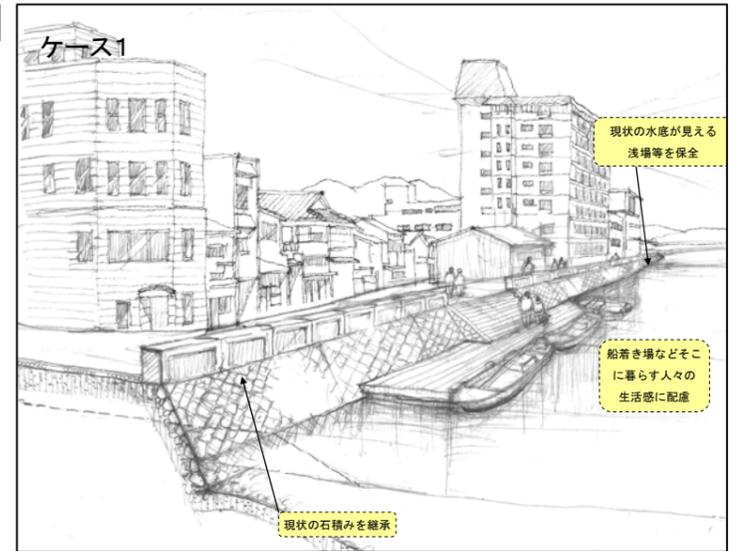
景観整備の方向性

- 松江地方合同庁舎の水景広場と一体的に利用できる水辺のオープンスペースを創出する。
- 水辺にアクセスできる緩勾配の階段護岸を配置し、開放的な水辺空間を創出する。
- 上下流に連続する水際の遊歩道を配置し、岸辺の回遊コースの一部とする。

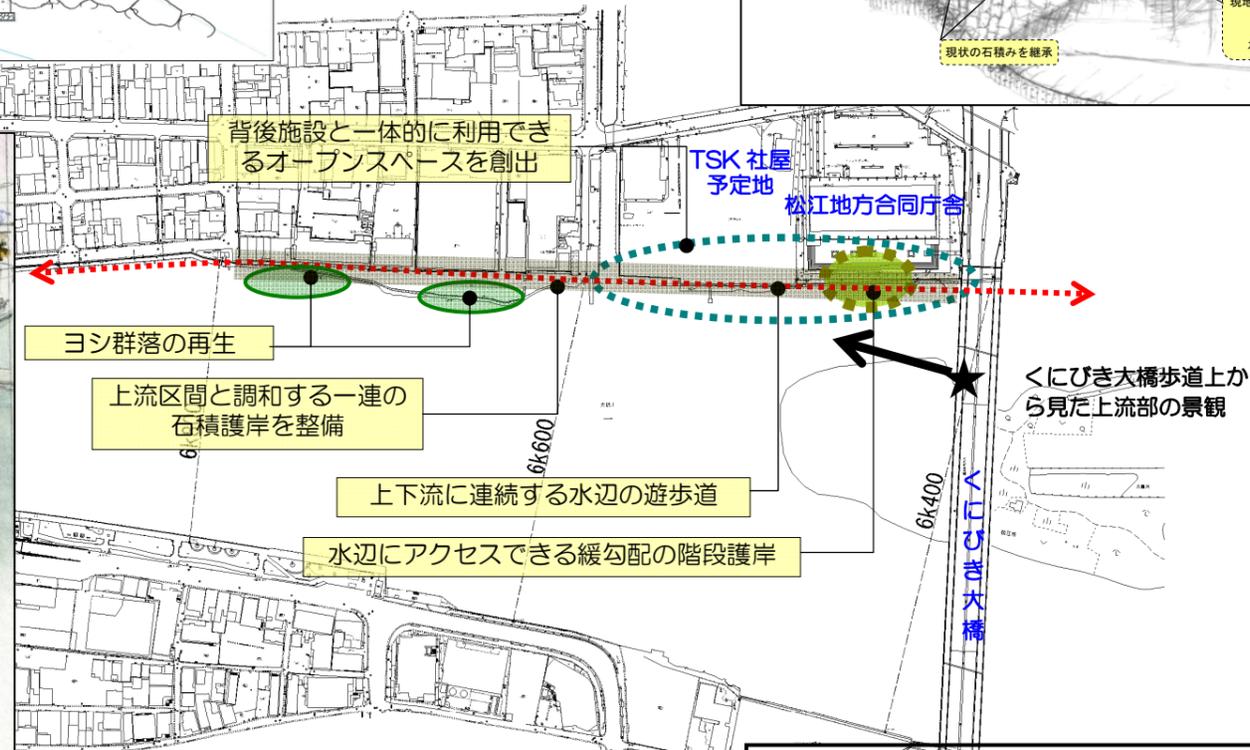
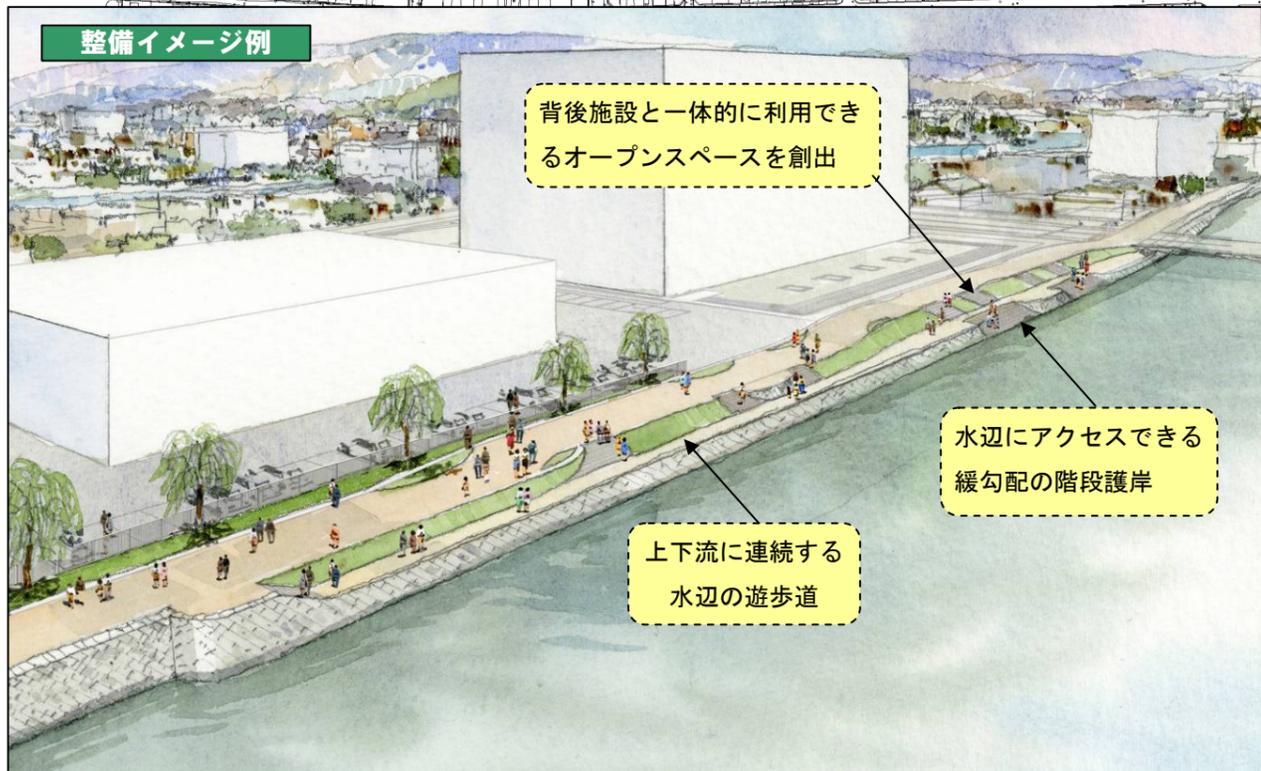


赤字) 大橋川景観計画の目標に加えて新たに追加

整備イメージ例



整備イメージ例



護岸、水辺階段等の具体的な整備内容は、今後地区住民や利用者の意見を聴取して決定するため、変更する場合があります。

(6) 景観設計方針

景観設計にあたり配慮すべき事項

① 護岸選定方針

◆ 石積み護岸を基本とする

- ・上流北岸の特徴である石積み護岸や柳並木等の風情に配慮し、観光都市松江にふさわしい水辺景観の形成を図るため、石積み護岸を基本とする。

◆ 水辺のスポットでは開放的な緑の空間を創出する

- ・背後地と一体性のある開放的な水辺空間を形成する区間では、護岸の上部は緩勾配の張芝護岸とする。

◆ 階段部や平場部は自然石仕上げとする

- ・細部の仕上げ等は自然石張りとし、護岸全体の質感を確保する。不容易にコンクリート2次製品は使用しないよう配慮する必要がある。

② 水辺のスポット・修景要素配置の考え方

◆ 背後地の土地利用や利用者の動線に配慮し階段、水辺散策路等を配置する

- ・合同庁舎の水景広場等、背後地の広場や利用者動線に配慮し、水辺にアクセスする階段護岸を配置する。
- ・また主要な視点場からの見え方に配慮し、水辺景観形成の修景要素となるよう配慮する。

◆ ヤナギを主とした河畔並木の形成

- ・上流区間北岸の特徴となっている河畔のヤナギ並木のイメージを継承できるよう、ヤナギを主体とした植栽を行う。

③ 主要な視点場と景観

◆ くびき大橋歩道上からみた水際の眺め



景観設計方針

(今後作成予定)

● 護岸材料

- ・材料
- ・構造、積み方
- ・強度
- ・明度、色相

● 細部の処理

- ・階段部、テラス部
- ・天端処理
- ・端部処理
- ・帯工 など

● 付帯施設

- ・通路
- ・転落防止柵 など

4-2 上流部ゾーン:南岸

4-2-1 区間③ 宍道湖大橋～新大橋(南岸)

(1) 景観特性

区間③：宍道湖大橋～新大橋

<歴史性>

- ・国際文化観光都市松江の象徴といわれる松江大橋が位置する。
- ・散策や癒しの場である柳並木が川沿いに続く。
- ・松江大橋および宍道湖の周辺では、朝霧や夕日の時間帯などに幻想的な風景がみられる。
- ・地場の石を用いた石積みの護岸がまちなみや柳並木と調和している。
- ・川とその背後のまちなみとの距離が近い。
- ・川の流れは緩やかで、岸辺にうちよせる波音は穏やかである。水の透明度が高く、岸辺から水底をみることができる。

<生活>

- ・松江大橋の橋詰めに源助公園が位置し、石積み護岸や桜の大樹が落ち着いた佇まいをみせている。
- ・売布神社の境内の緑が景観のアクセントとなっている。
- ・新大橋付近は川沿いが公園として整備され、広がりのある水面を楽しめる空間となっている。
- ・川とその背後のまちなみとの距離が近い。
- ・商業施設や民家が密集し、企業の看板などもみられる。



(2) 主な景観要素

区間③：央道湖大橋～新大橋

- 松江大橋
- 柳並木
- 一日の景（大橋の朝霧等）
- 石積み護岸
- 神社・仏閣（売布神社等）
- 源助公園
- 港湾緑地
- 老舗の旅館等



柳並木



源助公園



港湾緑地



石積み護岸

(3) 護岸状況と視覚的特性

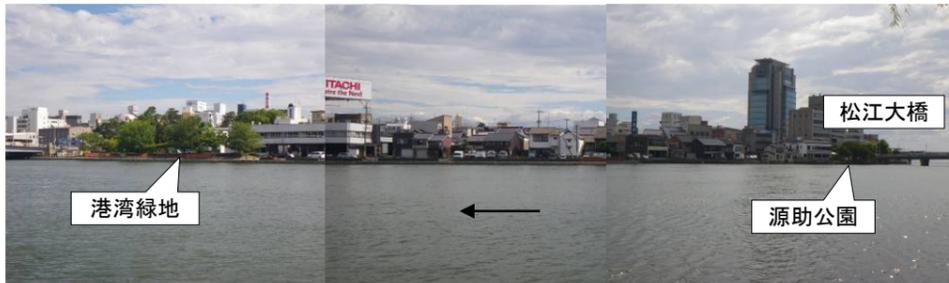
区間③：央道湖大橋～新大橋

護岸状況

- ・新大橋上流の一部区間を除き、島石や来待石、御影石等の石積み護岸となっている。

視覚的特性

- ・対岸景では遠景となること、背後にスケールの大きい建物が点在することから、護岸は殆ど目立たない。
- ・源助公園や港湾緑地、松江大橋は観光客等の人通りが多く、近景での視点場となる。



位置	区間③：央道湖大橋～新大橋				
	A	B	C	D	E
場所	白濁公園	合銀本社前	源助公園	喜久屋前	乗船場
形式	石積み護岸	石積み+コンクリート護岸	石積み護岸	石積み護岸 (一部コンクリート護岸)	矢板護岸
材質	御影石	島石	来待石他	河下石 島石	プレキャスト コンクリート
写真					



(4) 自然環境と水辺利用

区間③：宍道湖大橋～新大橋

<自然環境>

- 汽水環境の水域内にはヤマトシジミなどが生息し、サッパ、コノシロ、スズキ、マハゼ等の魚類が中海～宍道湖間の移動経路として利用している。

<水辺利用>

- 新大橋の上下流に港湾緑地が整備されており、市民や観光客の憩いの場として利用されている。
- 松江大橋の袂には、初代松江大橋の工事の際に人柱となった源助の石碑のある源助公園がある。
- 12年に一度、約100隻の船が大橋川を舞台に繰り広げる「ホーランエンヤ」が開催されている。
- 市民参加のボートレースとして始められた「松江市民レガッタ」の会場として利用されている。



(5) 景観設計目標

◆上流部ゾーン基本方針

- ・小泉八雲の愛した「日本の面影」・静けさを有する空間と、人々が集い・行き交う賑わいの空間が調和した新たな時代にふさわしい景観形成を行う。
- ・大橋や柳並木周辺の風情に配慮した景観形成を行う。
- ・国際文化観光都市松江にふさわしい優れた視点場の保全と創出を行う。
- ・水と人、川とまちの近さを活かした景観形成を行う。

区間③：央道湖大橋～新大橋

景観整備目標

- ・人と水、人とまちとのかかわりや、緑豊かな現状の風情を活かしつつ、国際文化観光都市松江の魅力をさらに引き立たせ、活気ある景観整備を行う。

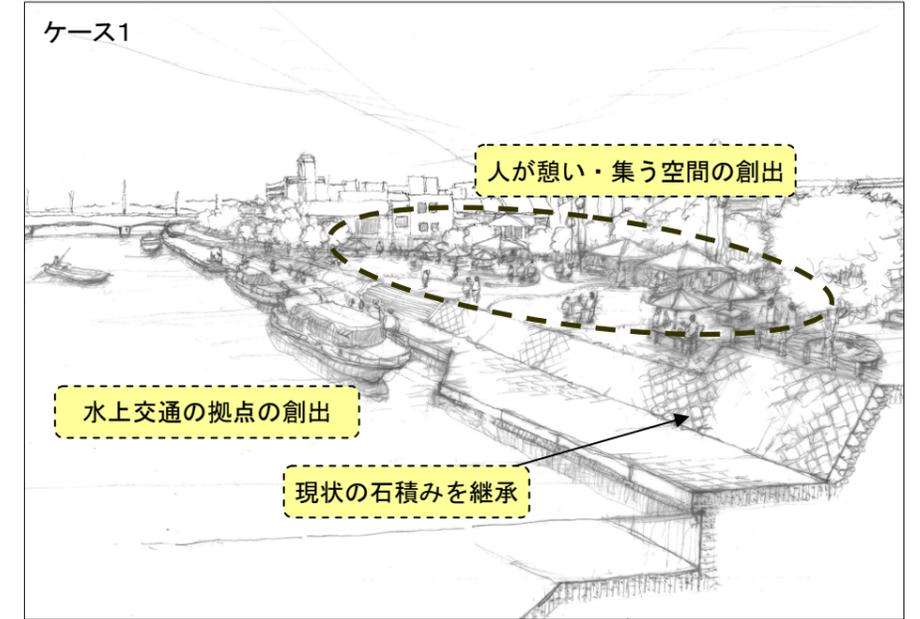
景観整備の方向性

- ・現状の動線、眺望場所を保全する。
- ・緩斜面や緑による新たな景観を創出する。
- ・現状の水底が見える浅場等水際景観を保全する。
- ・堤防形状は背後地との関係、利用性の視点も検討する。
- ・北岸との景観的調和を図る。
- ・現状が源助公園であることから、公園等の拠点スペースを組み込む。

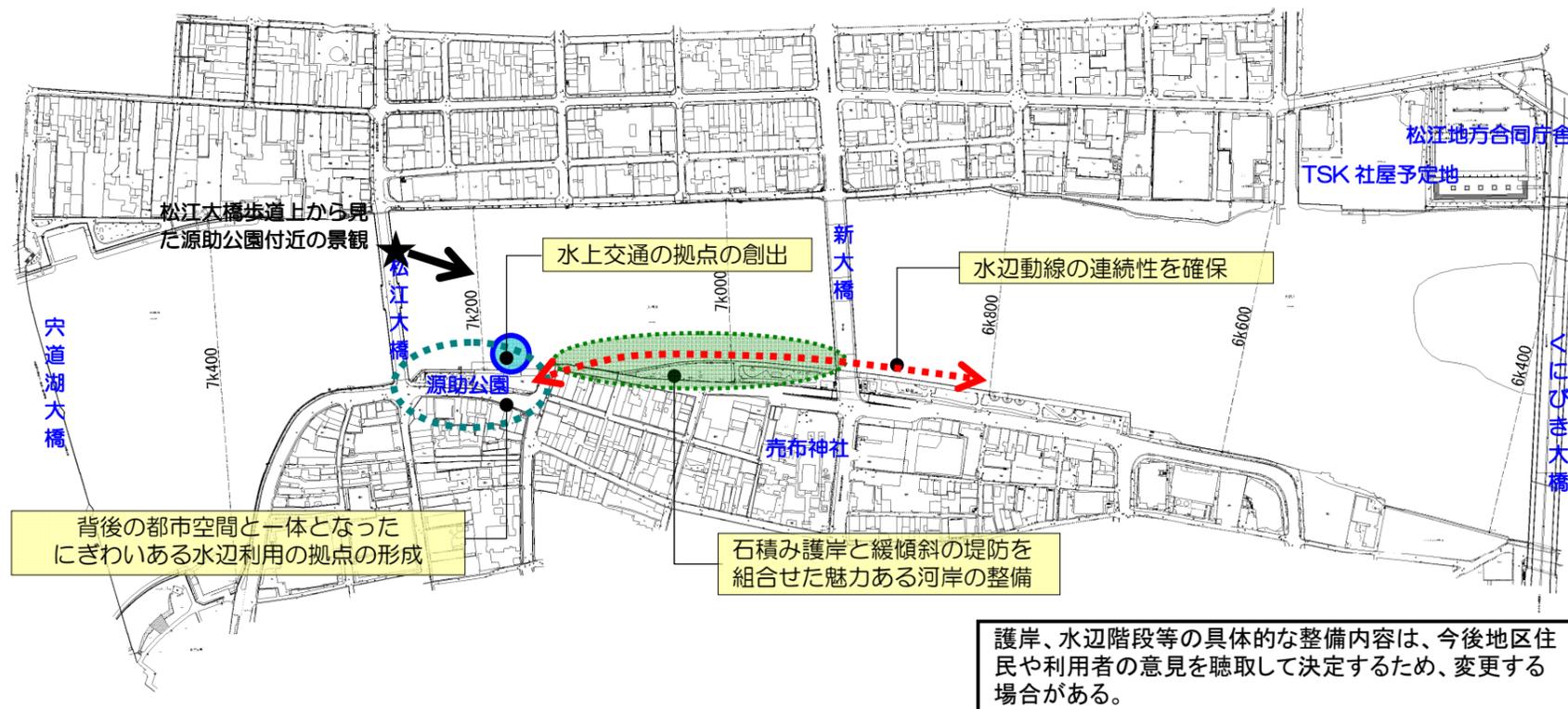
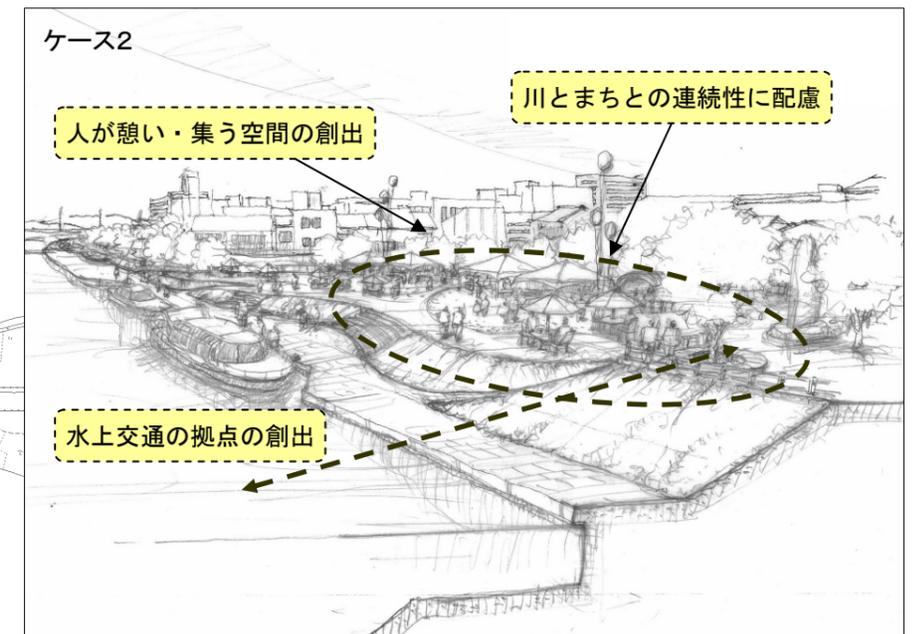


整備イメージ例

ケース1



ケース2



護岸、水辺階段等の具体的な整備内容は、今後地区住民や利用者の意見を聴取して決定するため、変更する場合があります。

(6) 景観設計方針

景観設計にあたり配慮すべき事項

① 護岸選定方針

◆ 緩勾配護岸は土羽芝張りを基本とする

・快適な水辺の緑地空間を創出するため、緩勾配となる区間については土羽芝張りを基本とする。

◆ 擁壁構造とする箇所については石積みを基本とする

・対岸との一体的な水辺景観を形成するため、擁壁構造とする箇所については石積み護岸を基本とする。

◆ 階段部や平場部は自然石仕上げとする

・細部の仕上げ等は自然石張りとし、護岸全体の質感を確保する。不容易にコンクリート2次製品は使用しないよう配慮する必要がある。

② 水辺のスポット・修景要素配置の考え方

◆ にぎわいある滞留空間や散策動線の創出に配慮し、緑の緩斜面やアクセス階段を配置する

・背後地の都市空間との一体性や利用者動線に配慮し、水辺にアクセスする階段護岸や散策・滞留の場となる多様な水辺空間を配置する。

・また主要な視点場からの見え方に配慮し、水辺景観形成の修景要素となるよう配慮する。

③ 主要な視点場と景観

◆ 松江大橋歩道上からみた源助公園付近の景観



景観設計方針

(今後作成予定)

● 護岸材料

- ・ 材料
- ・ 構造、積み方
- ・ 強度
- ・ 明度、色相

● 細部の処理

- ・ 階段部、テラス部
- ・ 天端処理
- ・ 端部処理
- ・ 帯工 など

● 付帯施設

- ・ 通路
- ・ 転落防止柵 など

4-2-2 区間④:新大橋～くにびき大橋(南岸)

(1) 景観特性

区間④: 新大橋～くにびき大橋

<歴史性>

- ・大橋および宍道湖の周辺では、朝霧や夕日の時間帯などに幻想的な風景がみられる。
- ・地場の石を用いた石積みの護岸がまちなみと調和している。
- ・川の流は緩やかで、岸辺にうちよせる波音は穏やかである。水の透明度が高い。

<生活>

- ・新大橋付近は川沿いが公園として整備され、広がりのある水面を楽しめる空間となっている。
- ・川とその背後のまちなみとの距離が近い。
- ・商業施設や民家が密集し、企業の看板などもみられる。

<都市>

- ・低層、高層の商業ビルが混在するなど都市化の進展を感じさせる景観となっている。
- ・松江駅に近く、遊覧船の発着場も位置する。

(2) 主な景観要素

区間④: 新大橋～くにびき大橋

- 港湾緑地
- 乗船場
- 背後のビル
- 新大橋、くにびき大橋



(3) 護岸状況と視覚的特性

区間④：新大橋～くにびき大橋

護岸状況

- 港湾緑地や船着場として利用されているため、直壁の矢板護岸が多い。

視覚的特性

- 対岸景では遠景となること、背後にスケールの大きい建物が点在することから、護岸は殆ど目立たない。
- 船着き場や港湾緑地は観光客等の人通りが多く、近景での視点場となる。
- 港湾緑地の樹木が都市的な景観のアクセントとなっている。



位置	区間④：新大橋～くにびき大橋					
	E	F	G	H	I	J
場所	乗船場	ニッセイ	フクシマモータープール	マンション	マンション	くにびき大橋
形式	矢板護岸	矢板護岸	既設石積み護岸崩壊 コンクリート簡易整備	石積み護岸	矢板護岸	コンクリートブロック 積み護岸
材質	プレキャスト コンクリート	コンクリート	河下石 コンクリート	河下石	コンクリート	コンクリートブロック
写真						



(4) 自然環境と水辺利用

区間④：新大橋～くにびき大橋

<自然環境>

- 汽水環境の水域内にはヤマトシジミなどが生息し、サッパ、コノシロ、スズキ、マハゼ等の魚類が中海～宍道湖間の移動経路として利用している。

<水辺利用>

- 新大橋の上下流に港湾緑地や観光遊覧船の乗船場が整備されており、市民や観光客の憩いの場として利用されている。
- 12年に一度、約100隻の船が大橋川を舞台に繰り広げる「ホーランエンヤ」が開催されている。
- 港湾緑地より上流は川に近接して大型マンションなどが立ち並んでおり、歩行者動線が分断されている。



(5) 景観設計目標

区間④：新大橋～くにびき大橋

景観整備目標

- ・人と水との近さや、そこから見られるまちなみと背後の自然風景を楽しむ視点場の保全とともに、人に賑わいや憩いを提供する景観整備を行う。

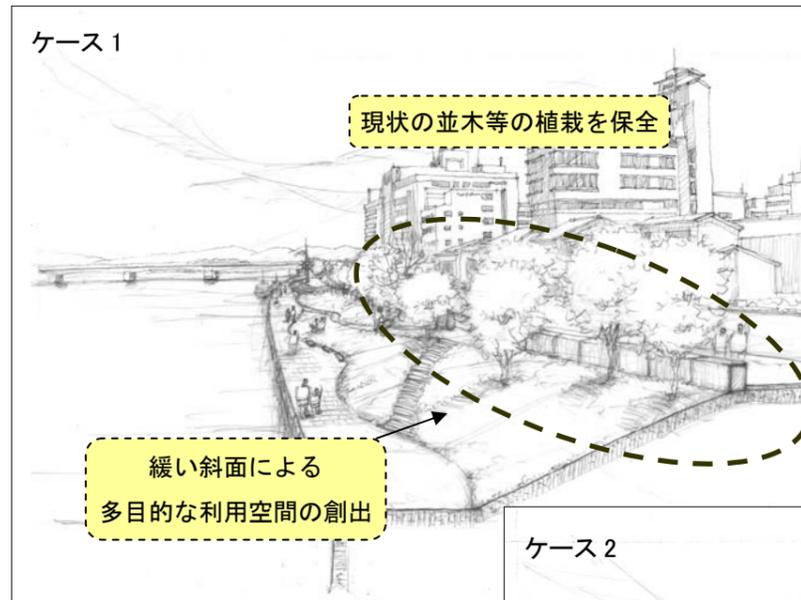
景観整備の方向性

- ・現状の動線、眺望場所を保全する。
- ・水際の利用機能に緩斜面および緑を加えた新たな景観を創出する。
- ・現状の水際(岸壁形状)を保全する。
- ・変化に富む背後地のまちなみに対応し、多様な景観を形成する。
- ・都市的なまちなみ、船着場が隣接するため、緑(修景・木陰)が多い護岸とする。

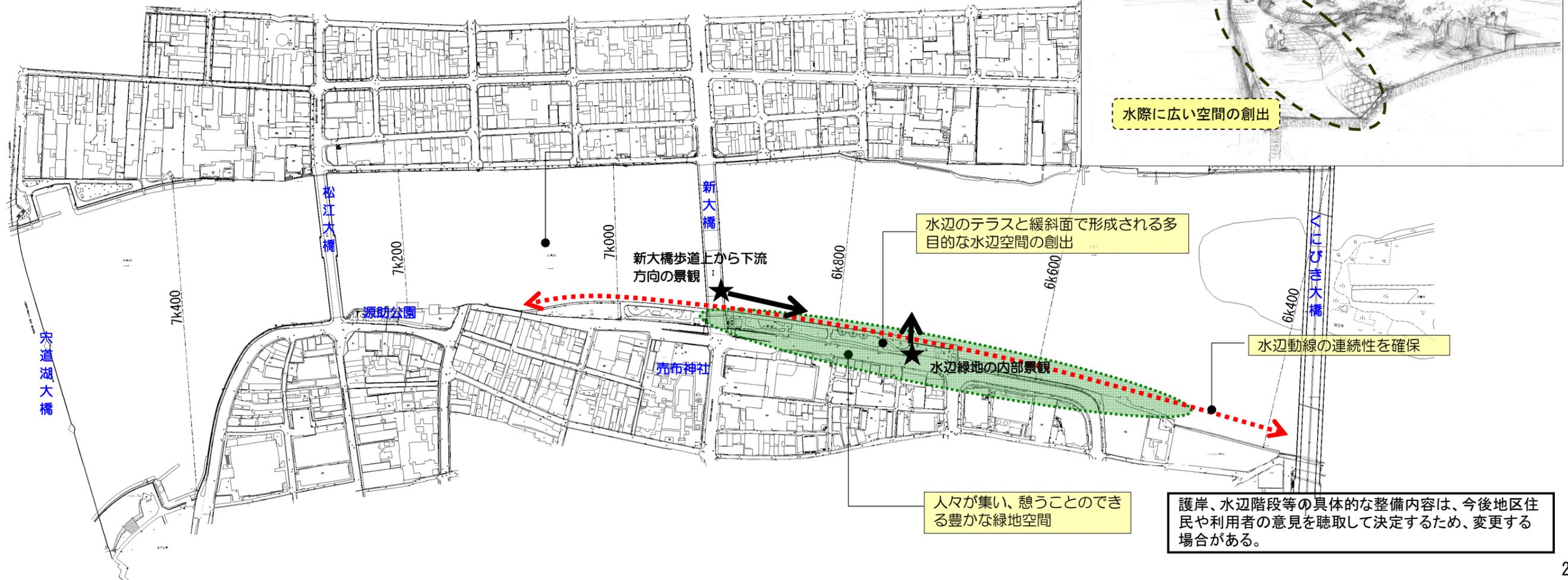
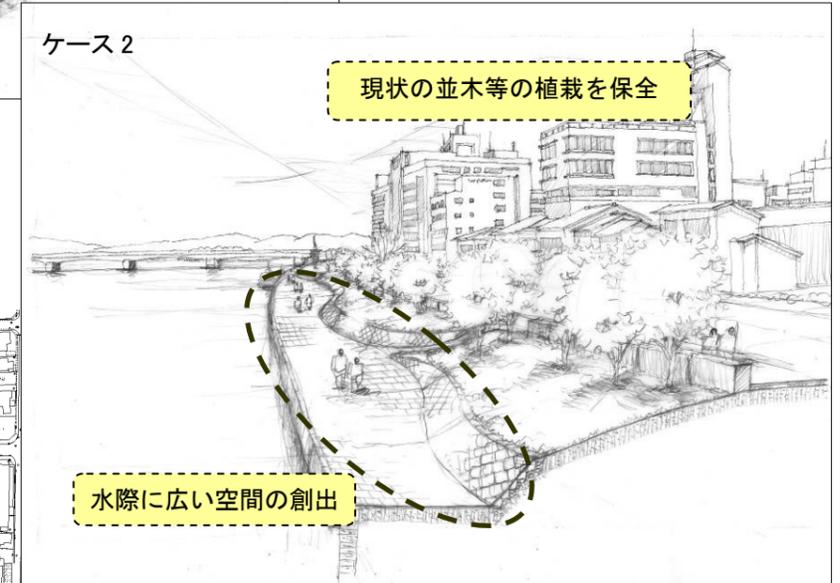


整備イメージ例

ケース1



ケース2



(6) 景観設計方針

景観設計にあたり配慮すべき事項

① 護岸選定方針

◆ 緩勾配護岸は土羽芝張りを基本とする

・快適な水辺の緑地空間を創出するため、緩勾配となる区間については土羽芝張りを基本とする。

◆ 擁壁構造とする箇所は石積み護岸を基本とする

・対岸との一体的な水辺景観を形成するため、擁壁構造とする箇所については石積み護岸を基本とする。

◆ 階段部や平場部は自然石仕上げとする

・細部の仕上げ等は自然石張りとし、護岸全体の質感を確保する。不容易にコンクリート2次製品は使用しないよう配慮する必要がある。

② 水辺のスポット・修景要素配置の考え方

◆ にぎわいある滞留空間や散策動線の創出に配慮し、緑の緩斜面やアクセス階段を配置する

・背後地の都市空間との一体性や利用者動線に配慮し、水辺にアクセスする階段護岸や散策・滞留の場となる多様な水辺空間を配置する。

・また主要な視点場からの見え方に配慮し、水辺景観形成の修景要素となるよう配慮する。

③ 主要な視点場と景観

◆ 水辺緑地内の内部景観



景観設計方針

(今後作成予定)

● 護岸材料

- ・ 材料
- ・ 構造、積み方
- ・ 強度
- ・ 明度、色相

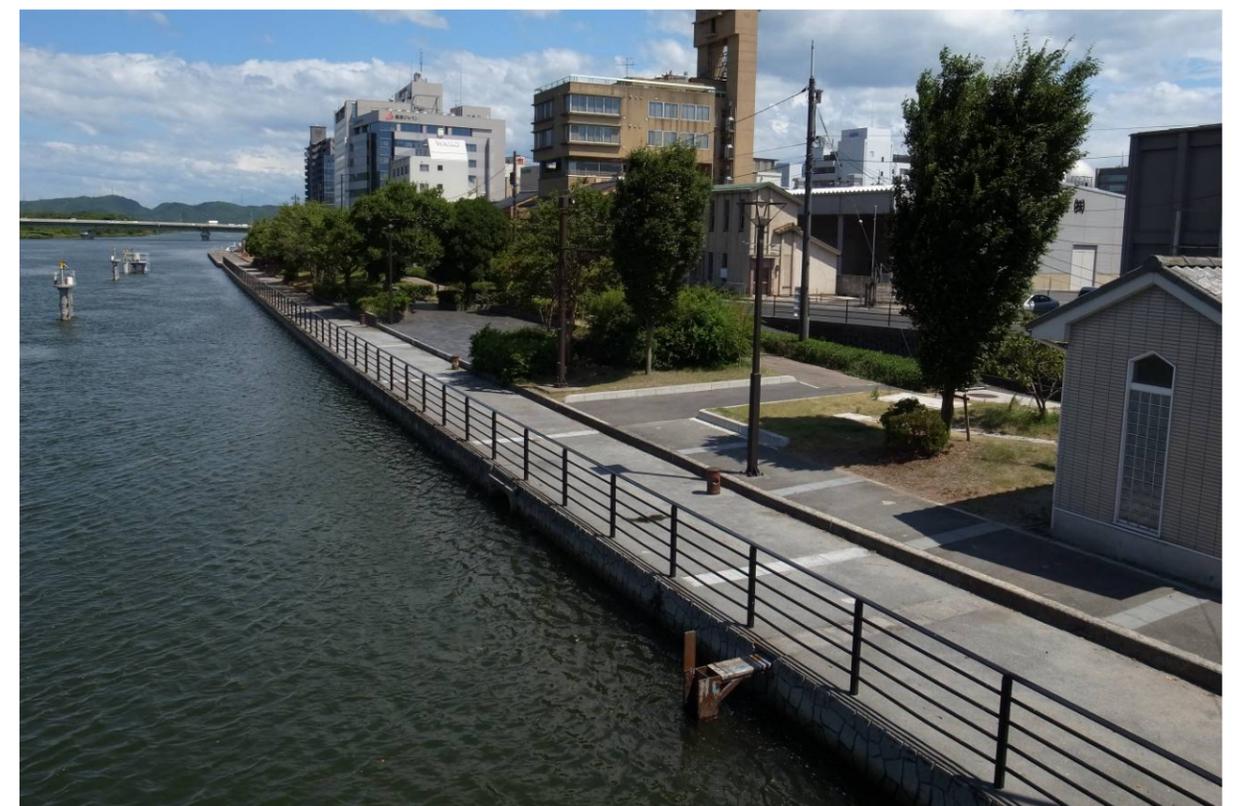
● 細部の処理

- ・ 階段部、テラス部
- ・ 天端処理
- ・ 端部処理
- ・ 帯工 など

● 付帯施設

- ・ 通路
- ・ 転落防止柵 など

◆ 新大橋歩道部から下流方向の景観



4-3 中流部ゾーン

4-3-1 区間⑤:上追子川合流点～五川合流点(北岸)

(1) 景観特性

区間⑤: 上追子川合流点～五川合流点

<自然の豊かさ>

- 川や水路、水田や湿性(湿地)などが織りなす水と緑の自然豊かな水郷の景観が広がる。
- 背景には嵩山・和久羅山の稜線が位置し、郷土をイメージさせる広がりのある、のびやかな風景となっている。

- 水郷松江の原風景【剣先川と中州(大橋川の左岸(北岸))】。
- 川、水路と水田、湿地(湿性(地))などが織りなす中州の景観。



・大橋川の舟運。



・嵩山、和久羅山からののびる稜線。



- 人々の生活と川とのかかわり(シジミ採り、魚釣り、散策等)への配慮。【大橋川の右岸(南岸)】



(2) 主な景観要素

区間⑤: 上追子川合流点～五川合流点

- 剣先川と中州
- 嵩山と和久羅山からののびる稜線
- 穏やかな田園
- ヨシ原



剣先川と中州



嵩山



追子地区のヨシ帯

区間⑤: 上追子川合流点～五川合流点

くにびき大橋
中の島

朝酌川

剣先川

大橋川

松崎島

(3) 護岸状況と視覚的特性

区間⑤：上追子川合流点～五川合流点

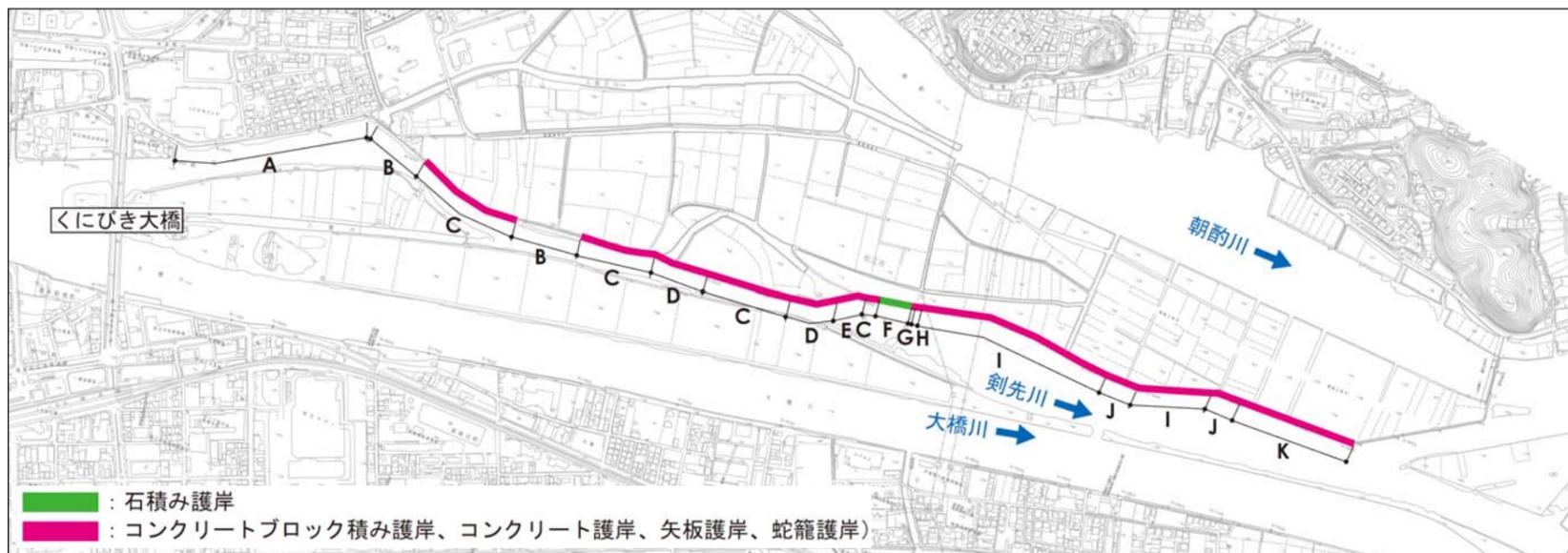
護岸状況

・景観ブロック積み護岸を中心に、コンクリート護岸や石積み護岸、蛇籠護岸などが混在しており、一部区間には自然河岸も残っている。

視覚的特性



位置	区間⑤：上追子川合流点～五川合流点										
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
場所	松江市学園南1丁目	松江市西川津町	松江市西川津町	松江市西川津町	松江市西川津町	松江市西川津町	松江市西川津町	松江市西川津町	松江市西尾町	松江市西尾町	松江市西尾町
形式	整備中	未整備	景観ブロック積み護岸	景観ブロック積み護岸	コンクリート護岸	石積み護岸	蛇籠護岸	コンクリート護岸	景観ブロック積み護岸	コンクリート護岸	景観ブロック積み護岸
材質	-	-	コンクリート系 景観ブロック	コンクリート系 景観ブロック	コンクリート	島石	砕石	コンクリート	コンクリート系 景観ブロック	コンクリート	コンクリート系 景観ブロック
写真											



(4) 自然環境と水辺利用

区間⑤：上追子川合流点～五川合流点

<自然環境>

- ・汽水環境の水域内にはヤマトシジミなどが生息し、サッパ、コノシロ、スズキ、マハゼ等の魚類が中海～宍道湖間の移動経路として利用している。
- ・中の島のほぼ全周にわたってヨシ群落が生息している。

<水辺利用>

- ・上追子川下流付近の一部は住宅街となっているが、それより下流の区間は川沿いに住家等はなく、人通りはほとんどない。
- ・ゴス（ハゼ）やスズキなどの釣り場として利用されている。
- ・シジミ漁など内水面漁業が営まれており、河岸には生業船等が係留されている。



(5) 景観設計目標

◆中流部ゾーン基本方針

- ・川や水路、湿地（湿性）などが織りなす水と緑の自然豊かな水郷の景観を活かした景観形成を行う
- ・人々の生活と川とのかかわりに配慮した景観形成を行う。
- ・嵩山、和久羅山などを望む広がりのある、のびやかな景観を保全する。

区間⑤：上追子川合流点～五川合流点（北岸）

景観整備目標

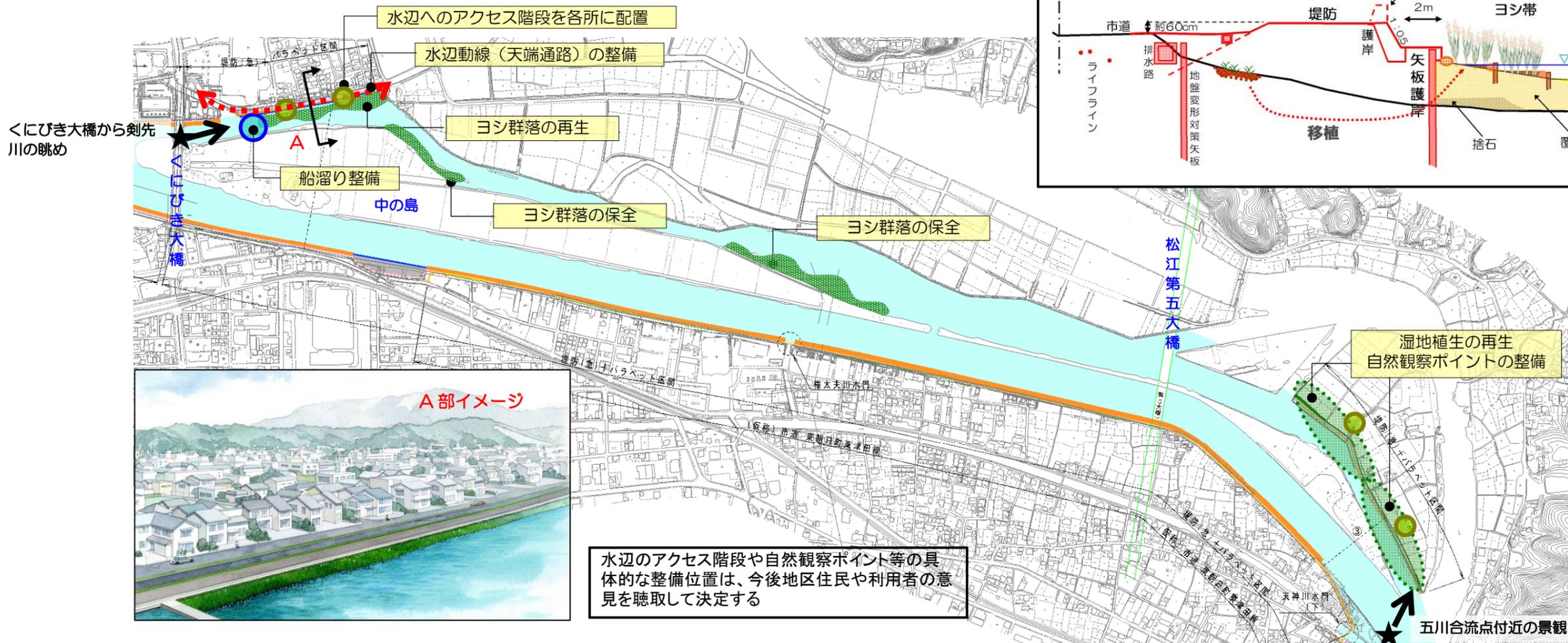
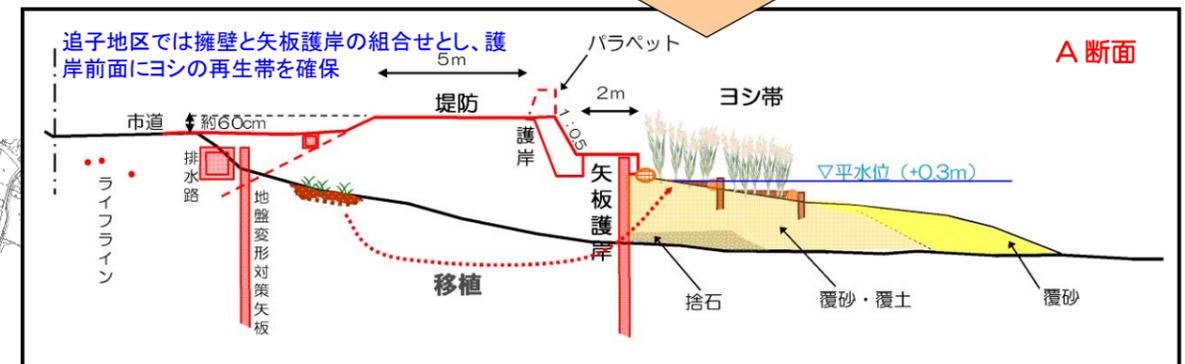
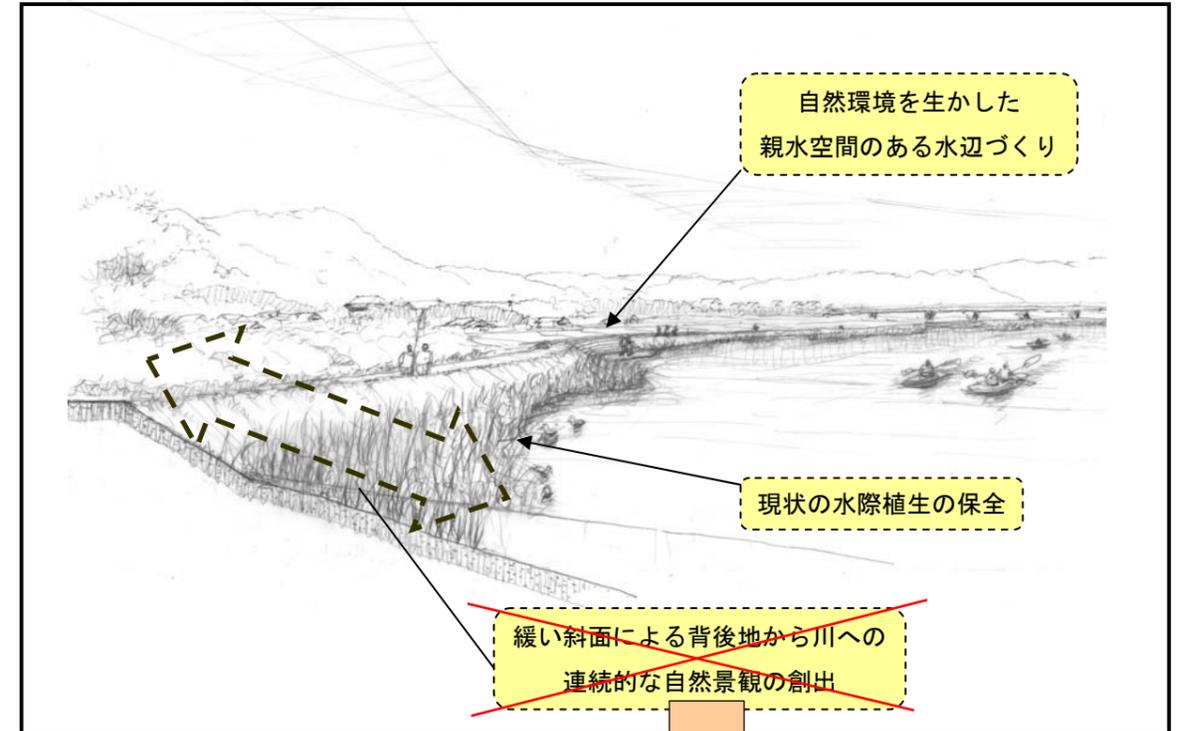
- ・背後の広がりのある景観、川や湿地、水際植生などの自然豊かな水郷としての風情を活かした景観整備を行う。

景観整備の方向性

- ・現状の動線、眺望場所を保全する。
- ・現状の水際景観(水際植生)を保全・再生を図る。
- ・現状の植生豊かな自然河岸の保全を図る



整備イメージ例



(6) 景観設計方針

景観設計にあたり配慮すべき事項

① 護岸選定方針

◆ ヨシ帯の再生による中流部らしい自然的な景観の創出を基本とする

- ・ 緩やかで多様な水際線を形成するヨシ帯の再生を目標とし、大橋川中流部ならではの自然的な景観を形成することを基本とする。

◆ ヨシ帯背後の護岸は護岸面積を抑えるため擁壁構造を基本とする

- ・ 護岸自体の存在感を低減できるような緩勾配の護岸は避け、護岸面積を低減できる擁壁構造を基本とする。

◆ 護岸素材は水際環境とコストに配慮して選定する

- ・ 護岸の前面にヨシ群落の生育場が創出されるため、護岸自体はさほど目立たない存在となるため、景観や自然環境の保全と整備コストのバランスにも配慮して護岸素材を選定する。

② 水辺のスポット・修景要素配置の考え方

◆ 沿川の生活空間とリンクした散策動線、水辺の滞留スポットとなるよう配慮する

- ・ 背後地の市街地との一体性や利用者動線に配慮し、水辺にアクセスする階段護岸や散策・滞留の場となる水辺空間を配置する。
- ・ また主要な視点場からの見え方に配慮し、水辺景観形成の修景要素となるよう配慮する。

③ 主要な視点場と景観

◆ くびき大橋から剣先川の眺め



◆ 五川合流点付近の景観



景観設計方針

(今後作成予定)

● 護岸材料

- ・ 材料
- ・ 構造、積み方
- ・ 強度
- ・ 明度、色相

● 細部の処理

- ・ 階段部、テラス部
- ・ 天端処理
- ・ 端部処理
- ・ 帯工 など

● 付帯施設

- ・ 通路
- ・ 転落防止柵 など

4-3-2 区間⑥:くにびき大橋～五川合流点(南岸)

(1) 景観特性

区間⑥:くにびき大橋～五川合流点

<生活>

- ・遊覧船等の船着き場が位置し、船の行き交う風景がみられる。
- ・ゴズ（ハゼ）やスズキなどの釣り場となっており、水辺で釣りを楽しむ人々の姿がみられる。
- ・釣り場となっている岸边は、水面との差高が小さく、人と川との距離の近さを感じさせる。
- ・くにびき大橋周辺を除く区域は、川沿いの民家や農地からなる生活感を感じさせる景観となっている。

(2) 主な景観要素

区間⑥:くにびき大橋～五川合流点

- 行き交う船と船着き場
- ゴズ（ハゼ）・スズキ釣り
- 川沿いの民家や農地



- ・水郷松江の原風景【剣先川と中州（大橋川の左岸（北岸））】。
- ・川、水路と水田、湿地（湿性）などが織りなす中州の景観。



- ・人々の生活と川とのかかわり（シジミ採り、魚釣り、散策等）への配慮。【大橋川の右岸（南岸）】



(3) 護岸状況と視覚的特性

区間⑥：くにびき大橋～五川合流点

護岸状況

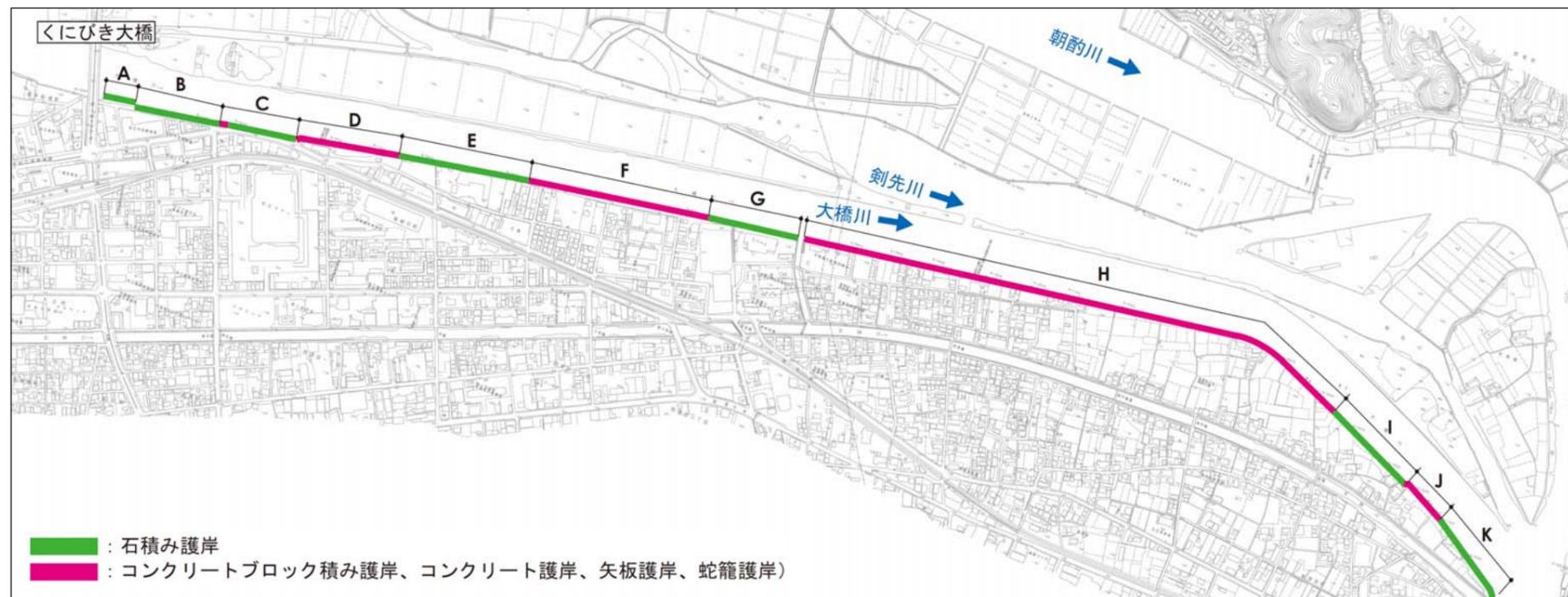
- ・島石等の石積み護岸が多く、船着場として利用されている区間には矢板護岸も見られる。

視覚的特性

- ・対岸景では遠景となり、河岸の高さも低いことから護岸は殆ど目立たない。
- ・シジミ採りや魚釣りなど人々の生活と川とのかかわりを感じさせる風景が広がっている。



位置	区間⑥：くにびき大橋～五川合流点										
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
場所	船着場	松江中央郵便局	マリエ・やしろ	乗船場	エブリイ				松江市東津田町	松江市東津田町	松江市東津田町
形式	石積み護岸	石積み+コンクリート護岸	石積み護岸	矢板護岸	石積み護岸	矢板護岸	石積み護岸	矢板護岸	石積み護岸	矢板護岸	石積み護岸
材質	島石	河下石	河下石 島石他	コンクリート	河下石 島石他	コンクリート	島石	コンクリート	島石	コンクリート	島石
写真											



(4) 自然環境と水辺利用

区間⑥：くにびき大橋～五川合流点

<自然環境>

- ・汽水環境の水域内にはヤマトシジミなどが生息し、サッパ、コノシロ、スズキ、マハゼ等の魚類が中海～宍道湖間の移動経路として利用している。
- ・パッチ状のコアマモ群落が分布している。

<水辺利用>

- ・川沿いに生活道路が通っているが、人通りは少ない。
- ・ゴス（ハゼ）やスズキなどの釣り場として利用されている。
- ・シジミ漁など内水面漁業が営まれており、河岸には生業船等が係留されている。



(5) 景観設計目標

区間⑥：くにびき大橋～五川合流点（南岸）

景観整備目標

- 背後に住む人と水とのかかわりや、のびやかで様々な表情を見ることができる自然風景、水辺で楽しめるような景観整備を行う。

景観整備の方向性

- 現状の動線、眺望場所を保全する。
- 魚釣、散策など水際の利用を重視しつつ、自然豊かな水辺環境の再生を図る。
- 水際に深場をつくらず、自然を活かした計画とする。
- 日常生活との結びつきを感じさせる、現状の水辺景観の保全に配慮する。

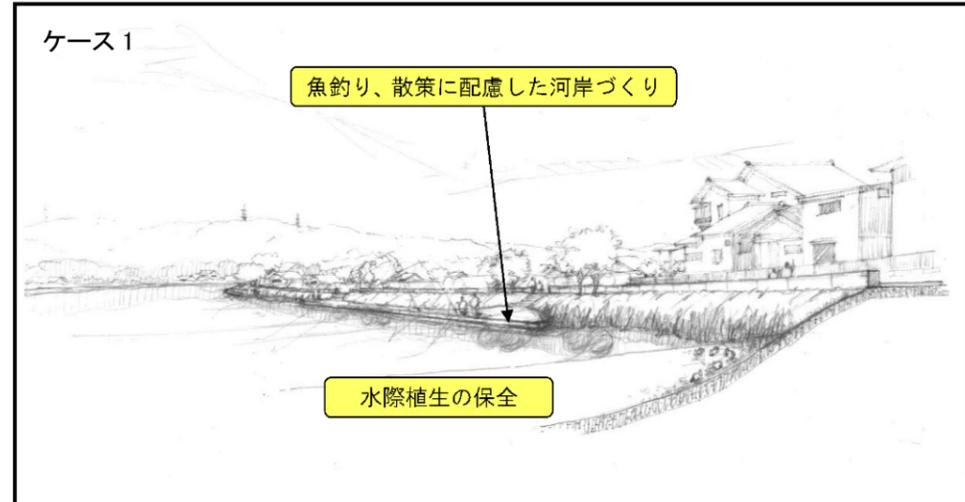


整備イメージ例

ケース1

魚釣り、散策に配慮した河岸づくり

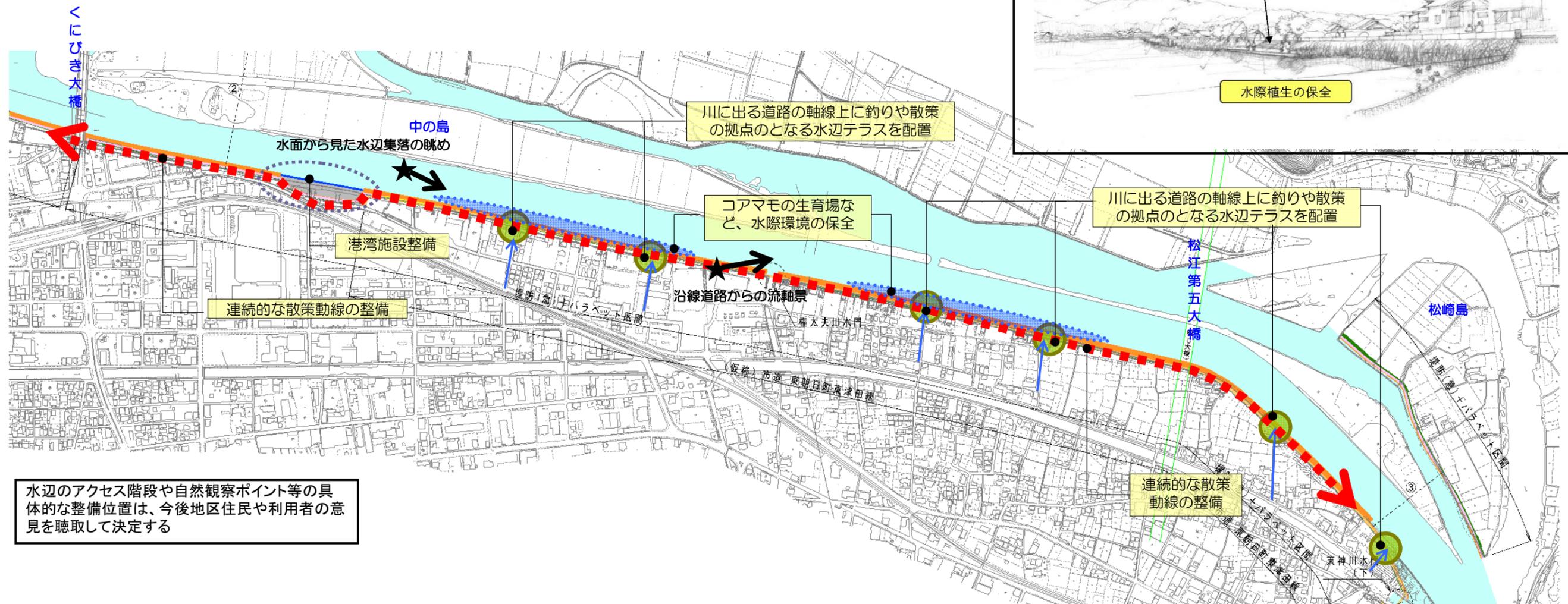
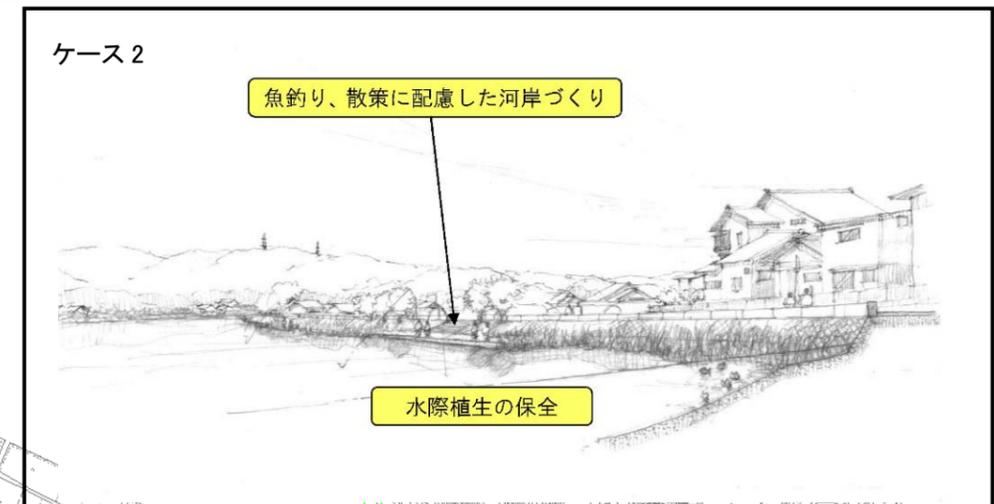
水際植生の保全



ケース2

魚釣り、散策に配慮した河岸づくり

水際植生の保全



(6) 景観設計方針

景観設計にあたり配慮すべき事項

① 護岸選定方針

◆ 護岸面積を抑えるため擁壁構造を基本とする

- ・護岸自体の存在感を低減できるよう緩勾配の護岸は避け、護岸面積を低減できる擁壁構造を基本とする。

◆ 護岸素材は水際環境とコストに配慮して選定する

- ・景観および自然環境の保全、整備コスト等のバランスにも配慮して護岸素材を選定する。

◆ 存置可能な石積護岸は極力活用する

- ・点在する既設石積護岸で活用可能なものについては極力活用し、現在の原風景の保全を図る

② 水辺のスポット・修景要素配置の考え方

◆ 水辺動線の連続性を確保する

- ・水辺を連続して歩けることを当区間の魅力の1つとしてとらえ、快適な散策動線が連続的に確保できるよう配慮する。

◆ 沿川の生活道路、集落などリンクした散策動線、水辺の滞留スポットとなるよう配慮する

- ・川に出る道路の軸線上などに、釣りや散策の拠点となる水辺テラスを配置する。
- ・具体的な地点の選定にあたっては、沿川地区の住民や現在の水辺利用者からの意見を取り入れながら吟味を行うことに十分配慮する。
- ・また主要な視点場、および既存の景観要素（集落の風情、河畔樹木、残存する石積など）を活かしながら、それらの保全とセットとして水辺景観形成の修景要素となるよう配慮する。

③ 主要な視点場と景観

◆ 水面から見た水辺集落の眺め



景観設計方針

(今後作成予定)

● 護岸材料

- ・材料
- ・構造、積み方
- ・強度
- ・明度、色相

● 細部の処理

- ・階段部、テラス部
- ・天端処理
- ・端部処理
- ・帯工 など

● 付帯施設

- ・通路
- ・転落防止柵 など

◆ 沿川道路からの流軸景



4-4 下流部ゾーン

4-4-1 区間⑦:五川合流点～中海大橋(北岸)

(1) 景観特性

区間⑦: 五川合流点～中海大橋

<歴史性>

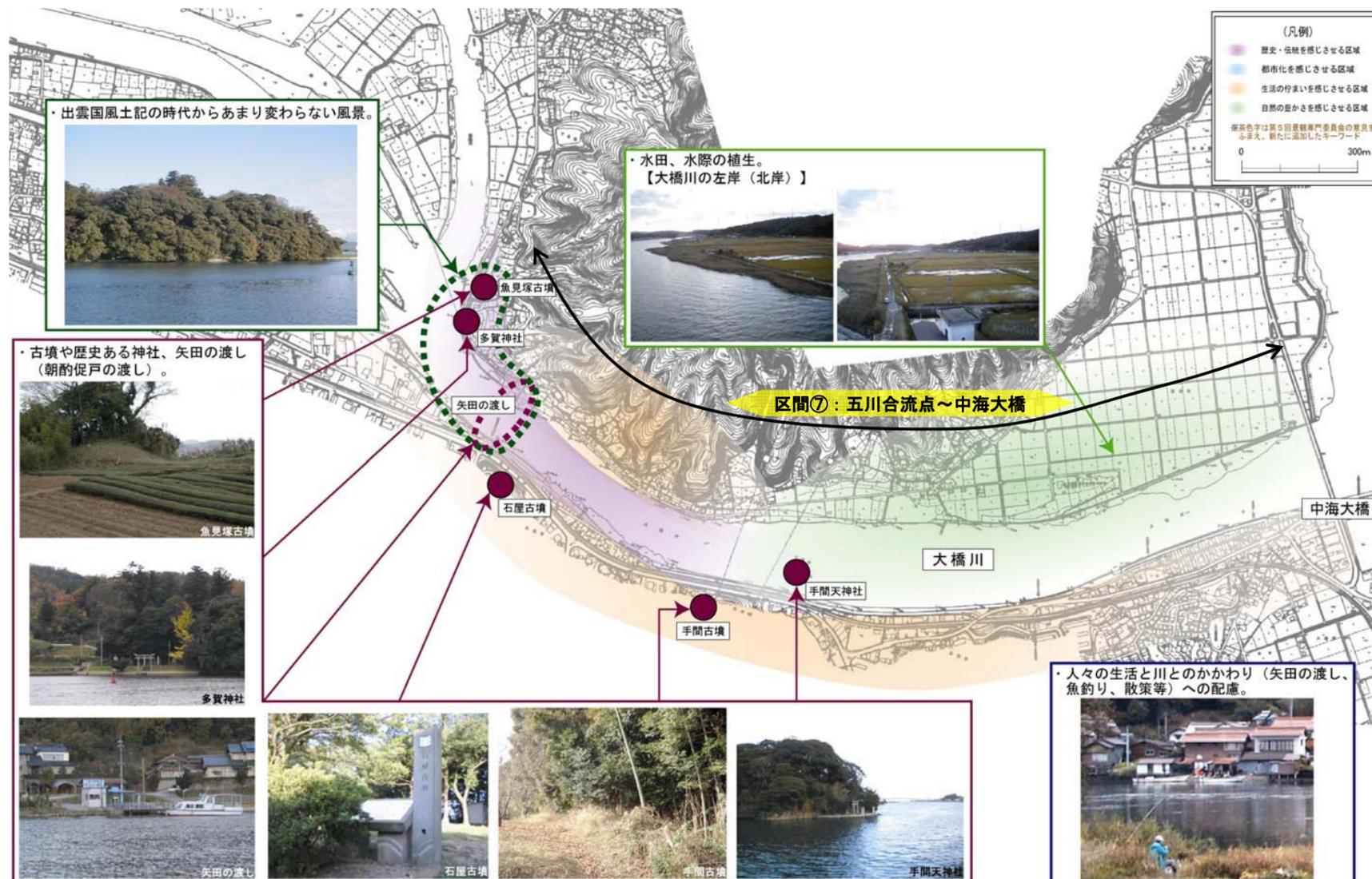
- 多賀神社の社叢や河川内に位置する塩楯島(手間天神社)の緑が、景観にアクセントを与えるとともに、古くからの人と川との関わりを感じさせる要素となっている。
- 「出雲国風土記」によると、「朝酌促戸渡」という渡し場があったとされ、また、朝酌の郷の人々の漁や市の情景についての記載もみられる。
- 現代の渡しである「矢田の渡し」が位置し、人と川との深いつながりを感じさせる要素となっている。

<生活>

- ゴズ(ハゼ)やスズキなどの釣り場となっており、水辺で釣りを楽しむ人々の姿がみられる。
- 釣り場となっている岸边は、水面との差高が小さく、人と川との距離の近さを感じさせる。
- 川とその背後の民家との距離が近い。

<自然の豊かさ>

- 左岸の中海大橋上流側には、水田や水際付近の植生が広がり、自然の豊かさを感じさせる景観となっている。



(2) 主な景観要素



(3) 護岸状況と視覚的特性

区間⑦：五川合流点～中海大橋

護岸状況

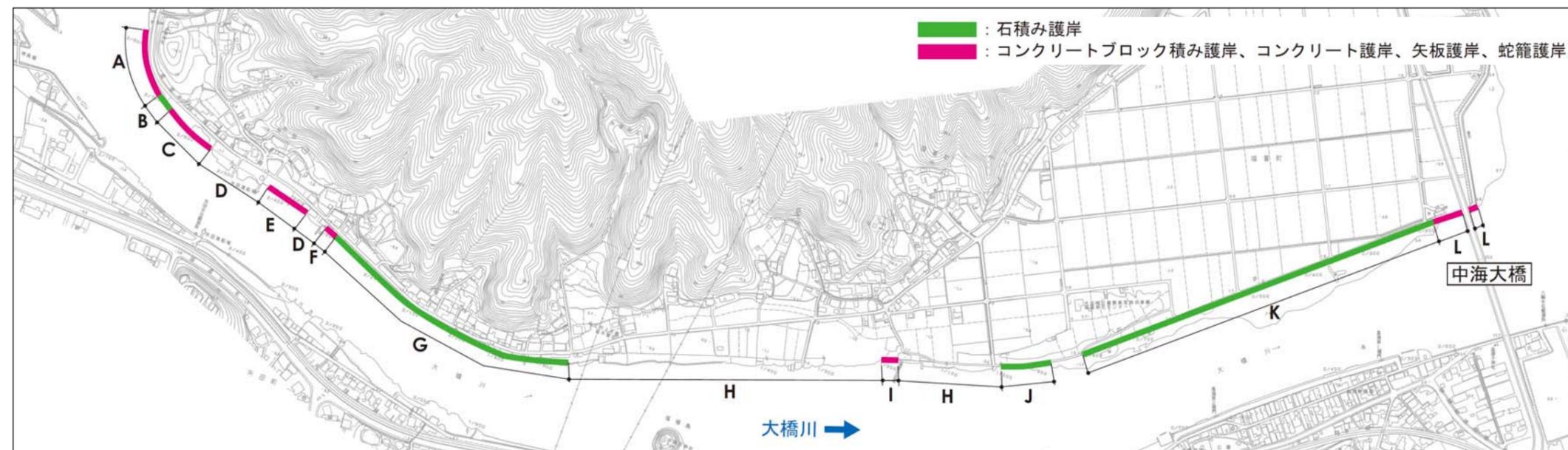
・島石等による石積み護岸やコンクリート護岸、コンクリートブロック積み護岸が混在しており、一部区間には自然河岸も残っている。

視覚的特性

・対岸景では遠景となり、河岸の高さも低いことから護岸は殆ど目立たない。また、流軸景となる中海大橋からの視点場も遠景となるため、護岸は殆ど目立たない。
 ・自然河岸の区間にヨシ群落などの水際植物が繁茂しており、柔らかな水辺景観が創出されている。
 ・背後に広がる田園や山並みが自然の豊かさを感じさせる。多賀神社などの史跡が風土記の時代から変わらぬ風景を残している。
 ・川沿いに生活道路が通っているが、人通りは少なく、近景で護岸を眺めるような視点場は特にない。



位置	区間⑦：五川合流点～中海大橋											
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
場所	松江市朝酌町 (多賀神社)	松江市朝酌町	松江市朝酌町	松江市朝酌町 (矢田の渡し)	松江市朝酌町	松江市朝酌町	松江市朝酌町	松江市福富町	松江市福富町 (福富公会堂)	松江市福富町	松江市福富町	松江市福富町
形式	コンクリート護岸	石積み護岸	コンクリート護岸	未整備	コンクリートブロック積み護岸	コンクリートブロック積み護岸	石積み護岸	未整備	コンクリート護岸	石積み護岸	石積み護岸	コンクリートブロック積み護岸
材質	コンクリート	島石	コンクリート	-	コンクリートブロック	コンクリートブロック	島石	-	コンクリート	島石他	雑石	コンクリートブロック
写真												



(4) 自然環境と水辺利用

区間⑦：五川合流点～中海大橋

<自然環境>

- 汽水環境の水域内にはホトトギスガイなどが生息し、サツパ、コノシロ、スズキ、マハゼ等の魚類が中海～宍道湖間の移動経路として利用している。
- 大規模なヨシ群落やコアママ群落が分布している。
- 河口部付近にオオクグ群落が生息している。

<水辺利用>

- 川沿いに生活道路が通っているが、人通りは少ない。
- 上流付近の「矢田の渡し」は地域住民の通勤、通学の足として利用されている。
- ゴス（ハゼ）やスズキなどの釣り場として利用されている。
- シジミ漁など内水面漁業が営まれており、河岸には生業船等が係留されている。



(5) 景観設計目標

◆下流部ゾーン基本方針

- 古代より受け継がれてきた地域の歴史・文化を学び、敬い、後世へ伝えていけるような景観形成を行う。
- 人々の生活と川とのかかわりに配慮した景観形成を行う。

区間⑦：五川合流点～中海大橋（北岸）

景観整備目標

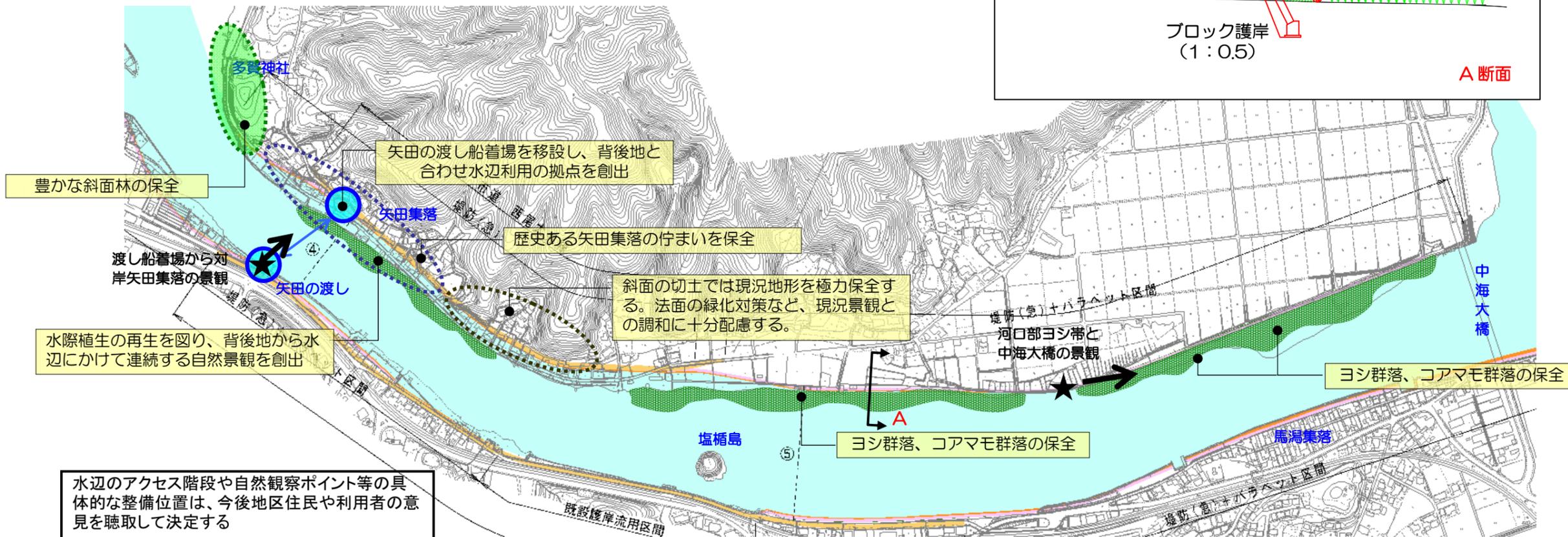
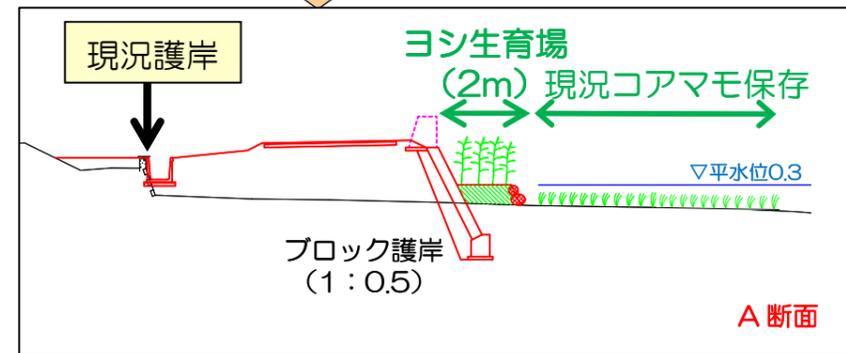
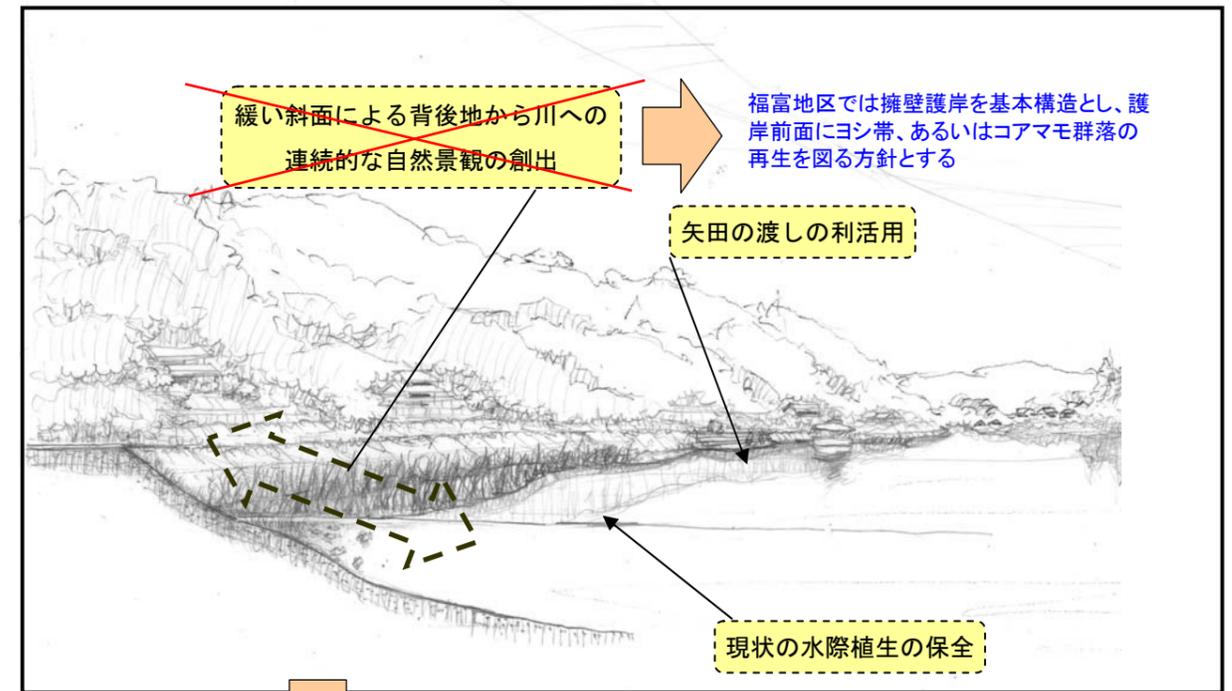
- 古代からの歴史、人々の生活や佇まい、水際から背後までの連続した自然に配慮した景観整備を行う。

景観整備の方向性

- 現状の動線、眺望場所を保全する。
- 現状の河岸・水際景観を保全する。
- 護岸が必要ない箇所は、緩やかな堤防で草を生えさせる程度とする。



整備イメージ例



(6) 景観設計方針

景観設計にあたり配慮すべき事項

① 護岸選定方針

◆ヨシ帯の再生による下流部らしい自然な景観の創出を基本とする

・緩やかで多様な水際線を形成するヨシ帯の再生を目標とし、大橋川中流部ならではの自然な景観を形成することを基本とする。

◆ヨシ帯背後の護岸は護岸面積を抑えるため擁壁構造を基本とする

・護岸自体の存在感を低減できるよう緩勾配の護岸は避け、護岸面積を低減できる擁壁構造を基本とする。

◆護岸素材は水際環境とコストに配慮して選定する

・護岸の前面にヨシ群落の生育場が創出されるため、護岸自体はさほど目立たない存在となるため、景観や自然環境の保全と整備コストのバランスにも配慮して護岸素材を選定する。

② 水辺のスポット・修景要素配置の考え方

◆矢田の渡し船着場周辺を水辺利用の拠点として位置づける

・船着場の再整備にあわせ、周辺一帯の護岸、広場、散策路等を一体的に整備し、魅力ある水辺の拠点を創出する。

◆沿川の生活空間とリンクした散策動線、水辺の滞留スポットとなるよう配慮する

・背後地との一体性や利用者動線に配慮し、水辺にアクセスする階段護岸や散策・滞留の場となる水辺空間を配置する。

・具体的な地点の選定にあたっては、沿川地区の住民や現在の水辺利用者からの意見を取り入れながら吟味を行うことに十分配慮する。

・また主要な視点場からの見え方に配慮し、水辺景観形成の修景要素となるよう配慮する。

③ 主要な視点場と景観

◆渡し船着場から見た対岸矢田集落の景観



景観設計方針

(今後作成予定)

●護岸材料

- ・材料
- ・構造、積み方
- ・強度
- ・明度、色相

●細部の処理

- ・階段部、テラス部
- ・天端処理
- ・端部処理
- ・帯工 など

●付帯施設

- ・通路
- ・転落防止柵 など

◆河口部ヨシ帯と中海大橋の景観



4-4-2 区間⑧:五川合流点～中海大橋

(1) 景観特性

区間⑧：五川合流点～中海大橋

<歴史性>

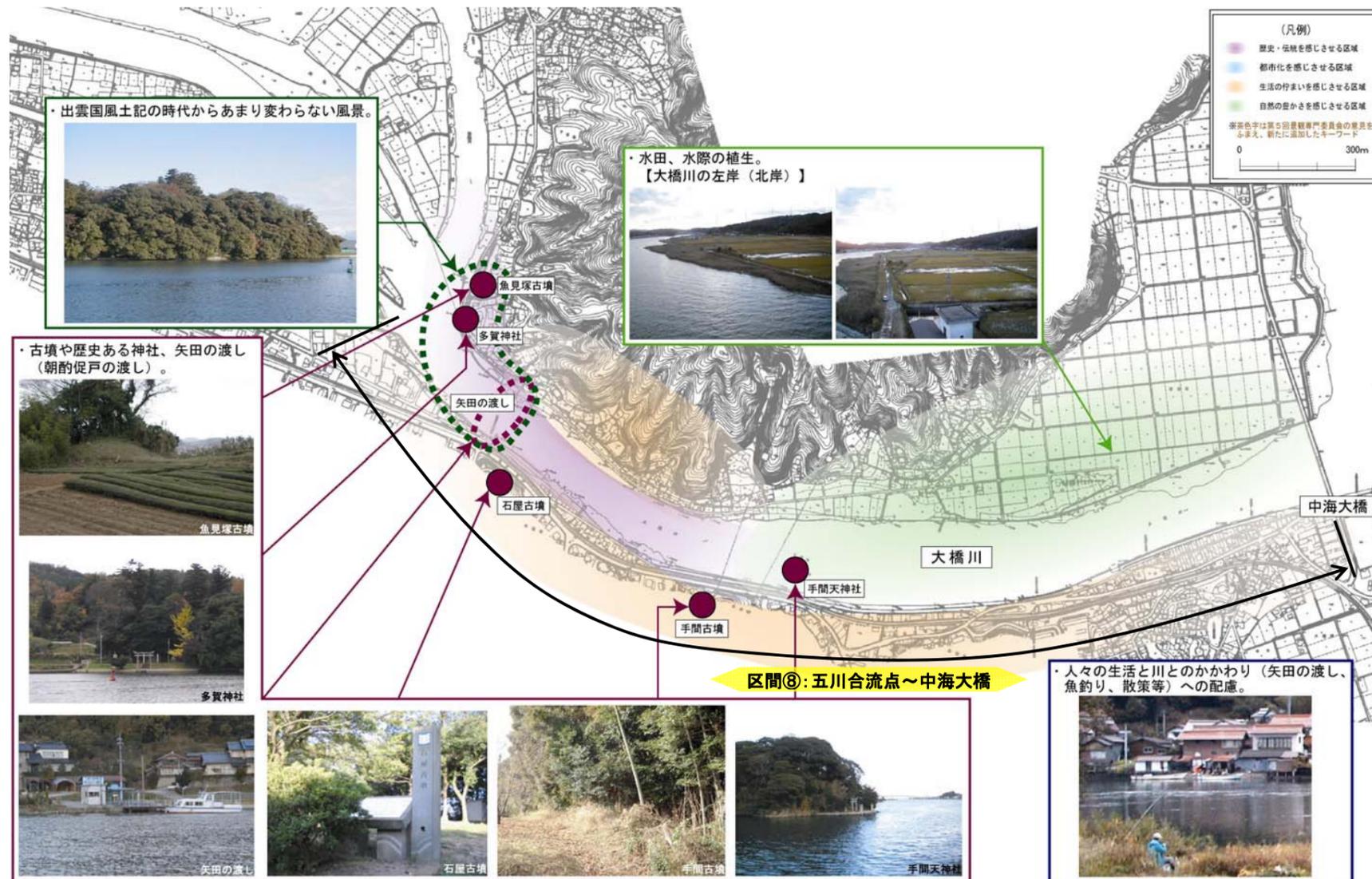
- ・河川内に位置する塩桶島（手間天神社）の緑が、景観にアクセントを与えるとともに、古くからの人と川との関わりを感じさせる要素となっている。
- ・「出雲国風土記」によると、「朝酌促戸渡（あさくみのせとのわたり）」という渡し場があったとされ、また、朝酌の郷の人々の漁や市の情景についての記載もみられる。
- ・現代の渡しである「矢田の渡し」が位置し、人と川との深いつながりを感じさせる要素となっている

<生活>

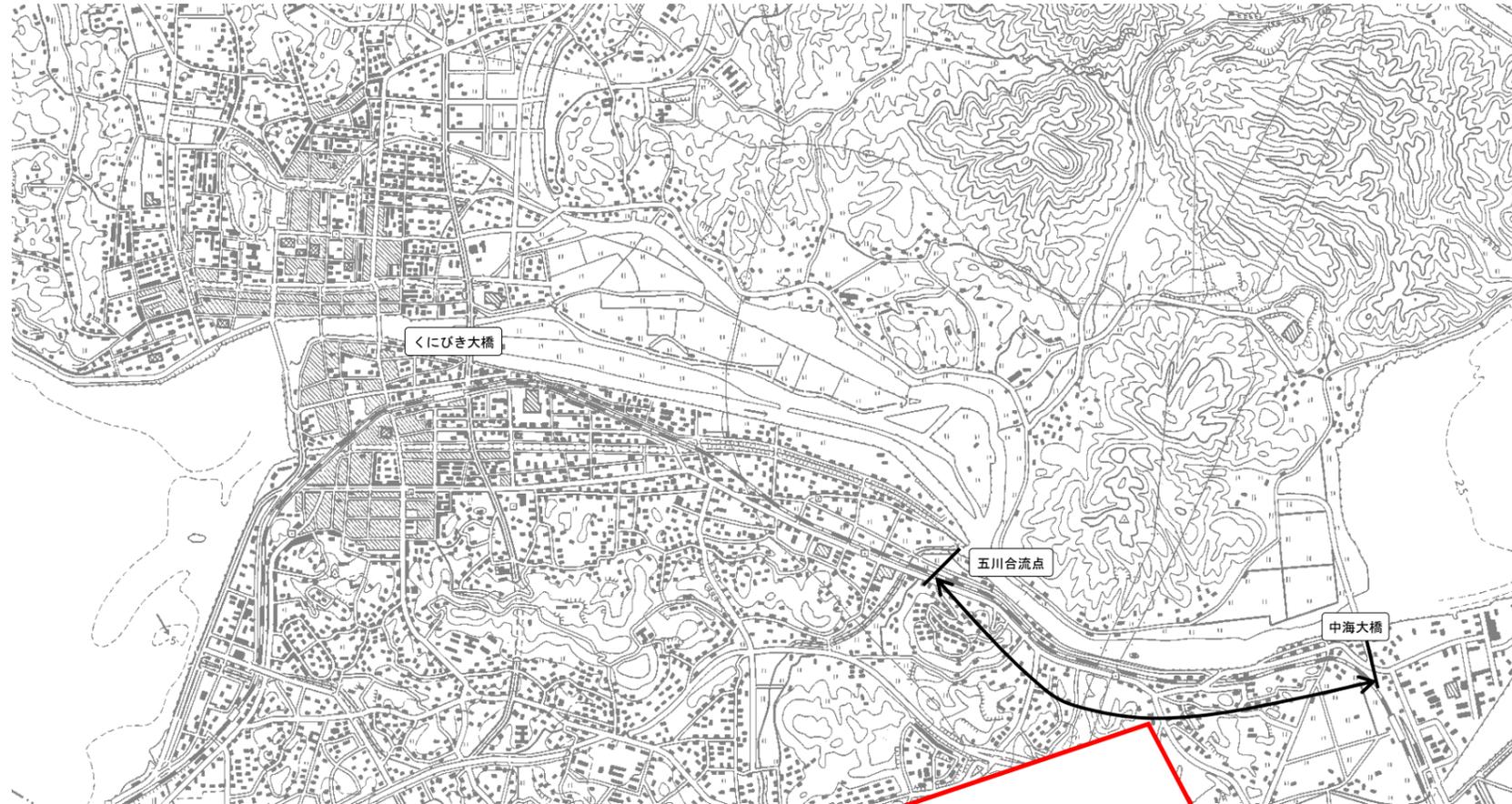
- ・ゴズ（ハゼ）やスズキなどの釣り場となっており、水辺で釣りを楽しむ人々の姿がみられる。
- ・釣り場となっている岸辺は、水面との差高が小さく、人と川との距離の近さを感じさせる。
- ・川とその背後の民家との距離が近い。

<自然環境>

- ・下流付近には自然河岸が残り、水際にはヨシ群落が広がっている。



(2) 主な景観要素



区間⑧：五川合流点～中海大橋

- 古墳（手間古墳、石屋古墳）や神社（手間天神社）
- 矢田の渡し
- 朝酌郷の風景
- ゴズ（ハゼ）・スズキ釣り
- 川沿いの民家
- ヨシ原



(3) 護岸状況と視覚的特性

区間⑧：五川合流点～中海大橋

護岸状況

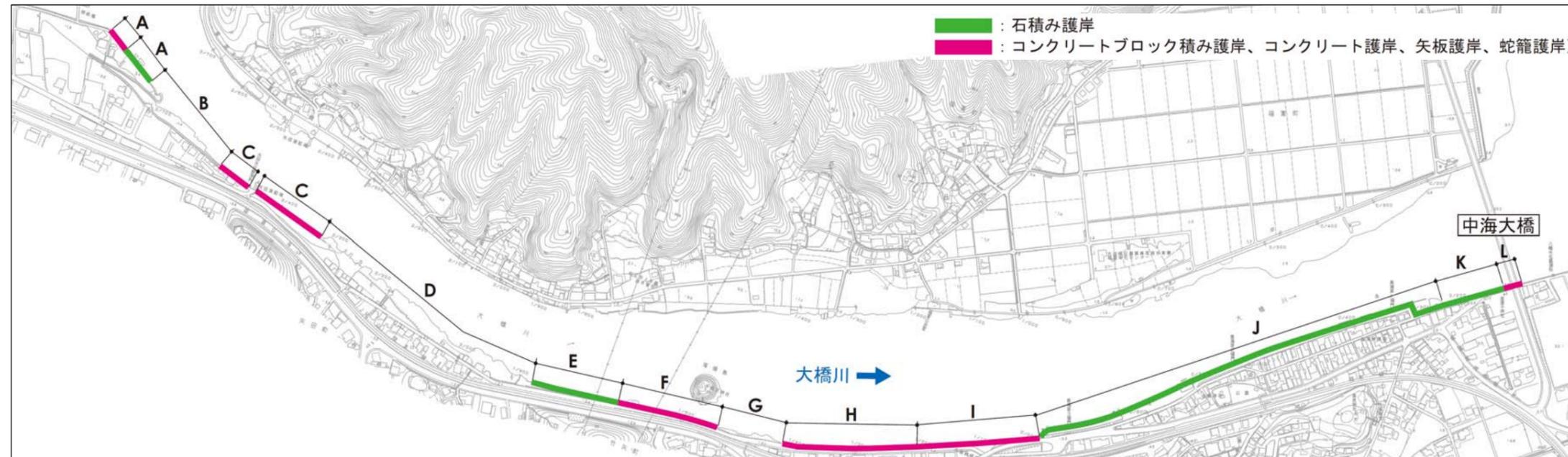
- ・島石等による石積み護岸やコンクリート護岸、コンクリートブロック積み護岸が混在しており、一部区間には自然河岸も残っている。

視覚的特性

- ・対岸景では遠景となり、河岸の高さも低いことから護岸は殆ど目立たない。また、流軸景となる中海大橋からの視点場も遠景となるため、護岸は殆ど目立たない。
- ・自然河岸の区間にヨシ群落などの水際植物が繁茂しており、柔らかな水辺景観が創出されている。
- ・大橋川に浮かぶ手間天神社や石屋古墳などが風土記の面影を今も残している。
- ・川沿いに生活道路が通っているが、人通りは少なく、近景で護岸を眺めるような視点場は特にない。



位置	区間⑧：五川合流点～中海大橋											
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
場所	松江市東津田町	松江市東津田町	松江市矢田町 (矢田の渡し)	松江市矢田町・竹矢町	松江市竹矢町	松江市竹矢町 (手間天神社)	松江市竹矢町 (船着場)	松江市馬潟町	松江市馬潟町	松江市馬潟町・八幡町	松江市八幡町	松江市八幡町 (中海大橋)
形式	石積み護岸 (一部コンクリートブロック)	未整備	コンクリートブロック 積み護岸	未整備	石積み護岸	コンクリート護岸	未整備	コンクリート護岸	コンクリートブロック 積み護岸	石積み護岸	石積み護岸	コンクリートブロック 積み護岸
材質	御影石	-	コンクリートブロック	-	御影石	コンクリート	-	コンクリート	コンクリートブロック	雑石	島石	コンクリートブロック
写真												



(4) 自然環境と水辺利用

区間⑧：五川合流点～中海大橋

<自然環境>

- ・汽水環境の水域内にはホトトギスガイなどが生息し、サッパ、コノシロ、スズキ、マハゼ等の魚類が中海～宍道湖間の移動経路として利用している。
- ・上流付近にヨシ群落やパッチ状のコアマモ群落が分布している。

<水辺利用>

- ・川沿いに生活道路が通っているが、人通りは少ない。
- ・上流付近の「矢田の渡し」は地域住民の通勤、通学の足として利用されている。
- ・ゴス（ハゼ）やスズキなどの釣り場として利用されている。
- ・シジミ漁など内水面漁業が営まれており、河岸には生業船等が係留されている。



(5) 景観設計目標

区間⑥：五川合流点～中海大橋（南岸）

景観整備目標

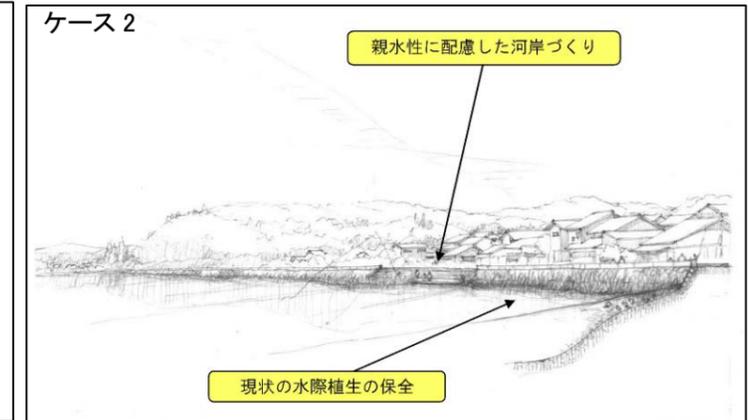
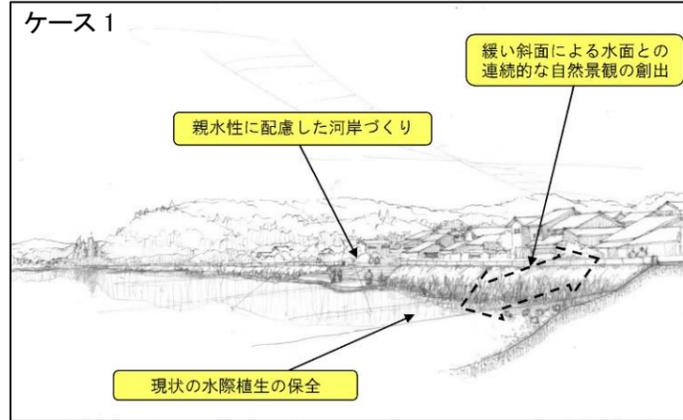
- 人々の生活や佇まい、水とのかかわりに配慮しつつ、安らぎと楽しみを満喫できる景観整備を行う。

景観整備の方向性

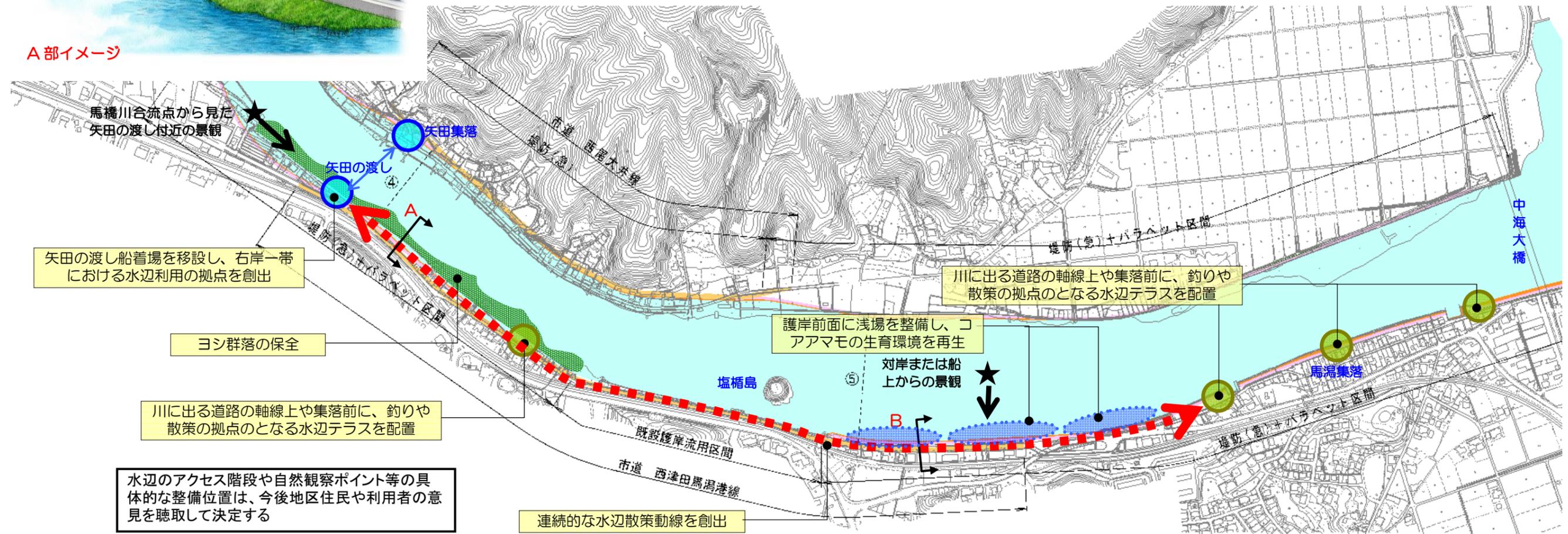
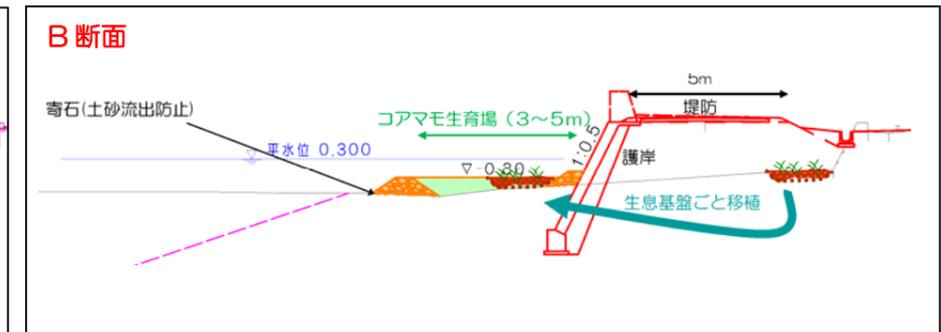
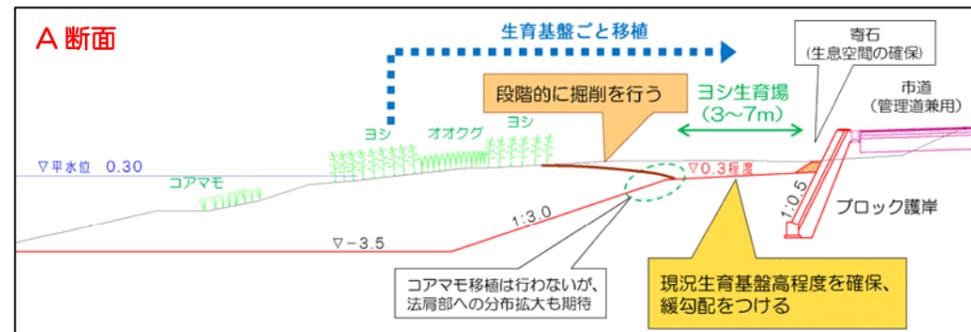
- 現状の動線、眺望場所を保全する。
- 川沿いの道路は利用頻度が高い、背後にまちなみがある等のため、水際の利用を付加した新たな景観（自然風）の創出。
- 現状の水際景観を保全する。



整備イメージ例



A部イメージ



矢田の渡し船着場を移設し、右岸一帯における水辺利用の拠点を創出

ヨシ群落の保全

川に出る道路の軸線上や集落前に、釣りや散策の拠点となる水辺テラスを配置

水辺のアクセス階段や自然観察ポイント等の具体的な整備位置は、今後地区住民や利用者の意見を聴取して決定する

川に出る道路の軸線上や集落前に、釣りや散策の拠点となる水辺テラスを配置

護岸前面に浅場を整備し、コアマモの生育環境を再生

対岸または船上からの景観

連続的な水辺散策動線を創出

(6) 景観設計方針

景観設計にあたり配慮すべき事項

① 護岸選定方針

◆ヨシ帯の再生による下流部らしい自然的な景観の創出を基本とする

- ・緩やかで多様な水際線を形成するヨシ帯の再生を目標とし、大橋川中流部ならではの自然的な景観を形成することを基本とする。

◆ヨシ帯背後の護岸は護岸面積を抑えるため擁壁構造を基本とする

- ・護岸自体の存在感を低減できるような緩勾配の護岸は避け、護岸面積を低減できる擁壁構造を基本とする。

◆護岸素材は水際環境とコストに配慮して選定する

- ・護岸の前面にヨシ群落の生育場が創出されるため、護岸自体はさほど目立たない存在となるため、景観や自然環境の保全と整備コストのバランスにも配慮して護岸素材を選定する。

② 水辺のスポット・修景要素配置の考え方

◆矢田の渡し船着場周辺を水辺利用の拠点として位置づける

- ・船着場の再整備にあわせ、周辺一帯の護岸、広場、散策路等を一体的に整備し、魅力ある水辺の拠点を創出する。

◆沿川の生活空間とリンクした散策動線、水辺の滞留スポットとなるよう配慮する

- ・背後地との一体性や利用者動線に配慮し、水辺にアクセスする階段護岸や散策・滞留の場となる水辺空間を配置する。
- ・具体的な地点の選定にあたっては、沿川地区の住民や現在の水辺利用者からの意見を取り入れながら吟味を行うことに十分配慮する。
- ・また主要な視点場からの見え方に配慮し、水辺景観形成の修景要素となるよう配慮する。

③ 主要な視点場と景観

◆馬橋川合流点から見た矢田の渡し付近の景観



◆対岸または船上からの景観



景観設計方針

(今後作成予定)

●護岸材料

- ・材料
- ・構造、積み方
- ・強度
- ・明度、色相

●細部の処理

- ・階段部、テラス部
- ・天端処理
- ・端部処理
- ・帯工 など

●付帯施設

- ・通路
- ・転落防止柵 など